

# Annual Report

アニュアルレポート

# 2022

社会福祉法人中川徳生会

# 理事長メッセージ

## 1. はじめに

2022年は「まさか」というような出来事がいくつも起きた年だと感じています。7月には元首相の安倍晋三氏が選挙の応援演説中に銃撃されて死亡しました。まさかの暗殺です。ロシアによるウクライナ侵攻は、ロシアの圧倒的な戦力によりウクライナの首都キーウを短期間で陥落するとの見方が大方の予想でした。しかし、ウクライナはロシアへの徹底的な抗戦により、いまだ戦争は続いています。まさかの長期戦です。ウクライナは、愛国心こそが国を守る最大の武器であることを教えてくれました。そして新型コロナウイルス感染症についても、比較的他国よりも感染者数を低く抑えられていると、感染対策の徹底で日本人の几帳面なところを世界から称賛された日本ですが、一時世界最多の感染者数を記録したときがありました。「まさか」の日本における感染爆発です。当法人においても、「まさか」という想定外の出来事がいくつかが散見されました。それが次の三つです。

## 2. Covid-19

100年に一度のパンデミックなどと言われた新型コロナウイルス感染症ですが、日本における初の感染者が発見されたのは2020年の1月でした。それから一カ月程度は一日における感染者数は0から数人程度で推移したものの、すぐに二桁に達し、あれよあれよと三桁、四桁と更新していき、2021年7月末にはついに1万人を超える日がでてきました。そしてその半年後の2022年2月初旬には10万人を超え、さらに半年後の2022年7月下旬には20万人を超えました。感染の波を繰り返していたものの、一日あたり感染者数は指数的に増えていきました。この感染爆発により日本は一週間当たりの感染者数が2022年7月から8月にわたって5週連続で世界最多となり、その数は週当たり100万人～150万人でありました。この時期と重なるように当法人全体でも感染者数は増加しました。7月に45人の感染者、8月には85人の感染者が確認され、2022年度の総感染者数208人の6割超がこの時期に発生しました。もはや日本の中では感染者増は避けられなかった時期でもあったと言えると思います。しかしながら、この感染者増により特養におけるショートステイの受け入れを中止したり、デイサービスの受け入れを縮小するなど余儀なくされたことは紛れもない事実です。これにより利用を予定していた方々の期待に沿えなかったことは申し訳なく思っております。

## 3. 物価高騰

2014年にロシアがウクライナのクリミア半島を一方的に併合しました。そのとき「えっ、こんなことってあり？」と驚きましたが、2022年2月には再びロシアはウクライナへ軍事侵攻して他国の領土を奪おうとしています。現代の国際社会で起こるとは思いもしなかった侵略戦争です。この戦争により各国がロシアへ制裁を科すためにロシア資源の輸入を限定的にしたことで世界の資源は不足するようになりました。これが物価高騰へとつながっていきます。加えて、新型コロナウイルス感染症との長い付き合いから停滞していた経済を徐々に回復していったことで世界的に物資の需要が増えていき、物価が徐々に上昇し、世界的なインフレへと向かっていくことになりました。各国ではインフレ対策のために金融引き締めを

図って金利を上昇させていくものの、日本では相変わらず金融緩和策を続けたことにより対各国通貨で円安へと進みました。輸入に頼る日本においての円安は物価高へとつながります。侵略戦争、世界的な物資需要増、円安のトリプルパンチで日本における物価も上昇しました。2022年度の消費者物価指数は前年比3%上昇し、実に41年ぶりの水準となりました。

#### 4. 人材争奪戦

当法人では正規職員（レギュラー職員、リミテッド職員）の採用権限は理事長にあります。したがって、正規職員の採用にあたっては理事長が最終面接をして採否を決定することになります。2022年度において最終面接を行った件数は70件程度でした。この面接から感じたことは、新たに介護業界へ足を踏み入れる人が減ったように感じています。すなわち、肌感覚ではあるものの脱コロナが進むにつれて徐々に飲食店やサービス業などの稼働が上昇し、人的な需要が増加したことによってわざわざ介護業界へ進む必要がなくなったと考えられます。コロナが流行し始めたころには、あれだけエッセンシャルワーカーの大切さを社会が認めていたにもかかわらず、脱コロナにより喉元過ぎれば熱さを忘れるように介護業界を避け、さらに介護業界から去るものまででてきているのが現実です。厚生労働省は、第8期介護保険事業計画において、2019年度比で介護職員を2023年度までに22万人増やして233万人にする必要があるとしています。しかし、2022年度までに2万人しか増えておらず2023年度中に不足する20万人を新たに増やすことは不可能と2023年度の入り口時点で、すでに厚生労働大臣が白旗を掲げる始末です。これは当法人にとってもとても危うい状況で、高齢化のスピードが鈍化している地方では介護職員の需要はさほどではありませんが、東京や神奈川など首都圏においては、高齢者数はまだまだ増えていきます。首都圏こそが人材争奪戦になると言えます。この傾向はすでに現れてきていると感じています。職員定着のための施策を急ぐ必要があると考えます。その一環として、コロナ感染の爆発で疲弊する全スタッフへ、感謝の気持ちも込めて40種類の食品や癒しグッズの品々からセレクトできる「お年玉ギフト」を配布しました。そして、当法人の特長である福利厚生制度（カフェテリアプラン）をもっと身近なものとして活用しやすくする議論を2022年度に行い、2023年度からは一新してスタートしました。

#### 5. おわりに

以上のように2022年度は法人運営をしていくにあたって心配の種が大きく分けて三つありました。一つ目は2020年から引き続いている新型コロナウイルス感染症の感染の波に翻弄されること。二つ目は国際情勢や社会経済活動がからくる物価高騰、そして三つめは不足する人材の確保であったと言えます。

新型コロナウイルス感染症は予想どおり何度も感染の波が押し寄せてきました。感染することがもう特別なことではなくなるくらい感染者数は爆発的に増えました。当法人においても感染者数は前年度の10倍になりましたが、日本全体と見比べて決して珍しいことではなく、むしろ激増した感染者がいたもののスタッフがよく凌いでくれたとあっていいと考えています。

物価高騰、特に電気、ガスの値上がりは顕著でした。早期に全施設LED化や電気・ガスの調達を見直していたことで2019年度と比較しての水道光熱費増は20%程度（2021年度比では32%増）に抑えられました。また市町村から物価高騰に対する補助金があったことは経営上一助になりました。

不足する人材の確保については大きな課題です。採用活動を進めていきつつ、ロボットやICTを活用して職員の負担軽減などを図り、働きやすい環境を整えていく必要があると考えています。2022年度にこのロボット・ICTを活用するための補助金を二つの特養で申請していて概ね2023年度内に整備ができる予定です。

このようにさまざまな心配事がある中で、当法人は一つひとつ手を打ってきた2022年度であったと考えています。

高橋 栄治郎

# 目次

理事長メッセージ・・・2

2022年度の取り組み重点項目・・・6

I. 中川徳生会の特徴的な取り組み・成果・・・15

(1) 医療体制の充実

24時間看護師の配置と医療が必要な方の受け入れ  
新型コロナウイルス感染症 予防と対策

(2) 管理栄養士による栄養ケアマネジメント

栄養リスクや食事形態の改善

(3) 「活かすケア」と「看取り」の取り組み

(4) 特徴的なデイサービス

(5) 地域包括ケアシステム

(6) 地域活動交流支援の取り組み

II. 中川徳生会の事業を支える・・・37

(1) 職員の待遇・制度

(2) プロジェクト活動

(3) 研修活動

III. 事業所一覧と職員構成・・・45

(1) 事業所・サービス一覧

(2) 職員構成

IV. 事業報告・・・48

(1) 特別養護老人ホーム（本入所事業）

(2) 特別養護老人ホーム（短期入所事業）

(3) デイサービス事業

(4) 居宅介護支援事業

(5) 地域包括支援事業

(6) 在宅サービス（訪問看護・定期巡回）事業

V. 財務三表・・・79

## 2022年度の取り組み重点項目

以下の三つを重点的に取り組む項目として掲げました。

### 1. 感染対策を行いながら令和3年並みの事業活動をおこなう。

サービス活動において、収益は前年度比でほぼ横ばいでありました。費用については前年度比で人件費が人手不足により減り、事業費は水道光熱費が増加(5千万円)し、事務費は修繕費が増加したものの委託費が減少しました。結果、総費用も前年度比やや増となったもののほぼ横ばいでありました。最終的に、収支差額は前年度比やや減となりましたがほぼ横ばいで収めることができました。

また、資産においては現預金が増加し、借入金が返済により減少したことでバランスシート上の貸借はほぼ変わらず横ばいとなりました。

### 2. 業務の棚卸しを行いムダな業務は排除し、より効率をあげる。

#### 中川の里

(特養・短期入所)

業務内容について、各シフトが担務する業務の入れ替えや削除、追加を考え、現状に安住せず工夫していく風土を目指している。コロナ禍の非常体制下で欠員補充も追い付いていないが、現在進行形で細かい改善を重ねている。

変化に対応できる柔軟性を持ち、フロアのパワーバランスを考慮しつつ、P職やL職の働き方も効率よく受け入れていけるように、今後も心がけていく。

(デイサービス)

時間帯毎の人員配置について実験配置を重ね、何度も見直しを行ってきた。

サービス提供時間では、延長時間のニーズを把握した上で19時を18時に短縮し効率化。

人員減への対応で改善が目立たないが、時間外勤務も減少してきている。

(居宅)

状況の変化に対応し、増加傾向にある「要支援」者も受け入れに務めている。その中で担当人数を高目安定させつつ、個々のご利用者さまとの関わり度合いのバランスを工夫し、無駄な時間外勤務にならない所でしっかり安定させている。

#### 都筑の里

日々、ショートステイ担当者をシフトで組んでいましたが、業務を整理した上で専属ドライバーにて受け入れ時の対応(荷物の確認・お部屋へのご案内等)や退所時の対応(荷物の確認・退所後のお部屋のリセット等)を行う事で介護職のシフトから外すことが出来、直接的な介護の業務に専念することが出来ました。

## ビオラ三保

- 面接や外部との会議を極力オンラインにて実施し移動時間や交通費を削減した。
- 電子記録の導入により手書きの負担感や重複記録を減らすことができた。
- 介護スタッフの人員に不足がある際は、入浴の対象をエリアごとにスタッフ1名ずつで対応するのではなく全エリアの入浴担当者が協力して対応し待ちの時間や稼働しない時間を極力減らした。

## ビオラ川崎

### ◆相談室(相談スタッフ)の業務改善について

◇短期入所生活介護(ショートステイ)における緊急時の受入対応について改善しました。緊急時の利用相談は夕方に入ること度も度々あります。これに対応するため、利用相談に対応する生活相談員の就業時間を2交代(9時～18時・11時～20時)のシフト制としました。就業時間帯を拡げることで受け入れ可能な幅が広がると同時に、役割分担をすることで業務効率も上がりました。受入れさえ決まれば後は24時間常駐する看護職員と介護職員が対応します。

◇入居待機者の受入れ体制に対する業務改善を行いました。

短期入所生活介護(ショートステイ)を増床した分、待機者の受入れをスムーズに進めるため、職員を増員しました。入居を希望する利用者や家族との面談を担う生活相談員を1名増員し、4名体制を整えました。更に介護支援専門員3名、介護主任1名で入居面談を実施し、スピーディーに入居いただける体制を整えました。

### ◆施設サービス課(介護スタッフ)の業務改善について

◇24時間365日、チームで入居者の生活を支える介護現場では、サービスの均一化を図るため、情報共有が重要になります。これまでは、ツールとしてノートを使用してきましたが、共有スピードが遅いこと、受け手に伝わったか不明確であること、情報を一方的に発信するにとどまっていた点が課題でした。

この情報共有ツールを電子化し、業務効率を上げました。申し送る情報をタイムリーに更新し、いつでも確認できるように改善し、申し送りに要する時間が短縮されました。各スタッフが確認したか分かる仕組みです。また、ケア方法の見直し、意見収集など、これまでケア会議で限られた人数しか参加できず、時間をかけて話し合われていたことが、ユニットスタッフ全員が参加し複数人の時間を拘束せずに、検討し実施することができるようになりました。

### ◆健康管理室(看護スタッフ)の業務改善

◇バイタル測定の見直し

バイタルの異常や、事故が起きた後は一律に一週間バイタル測定を行ってきました。これを状態把握に必要な測定期間を見直し、一日から三日で状態を評価することにしました。そうすることで、利用者の状態を把握できるとともに、業務負担を軽減し、処置等の業務に時間を充てるできるようになりました。

## ビオラ川崎(全ページからの続き)

### ◇申し送り内容の見直し

これまで4フロア160名分の申し送りを1日2回、約一時間ずつ行っていました。これを申し送るべき要点を特変者に絞り込むことで所要時間を約半分に短縮しました。その分、特変者や看取りの利用者に対する、ケア方針などを話し合う時間に充てることで、各看護スタッフが均一的な医療的ケアを提供することができています。

### ◇フロア担当制の廃止

これまではフロアごとに担当看護スタッフを配置していました。メリットとしては40名の利用者を深く理解することができる点でした。しかし、デメリットとして担当スタッフ以外の者がそのフロアに入ると、医療的判断が遅れるリスクがありました。これを解消するため、フロア担当制を廃止しました。

結果、医療的判断とアプローチがスピーディーになりました。また、スタッフ間の情報共有に対する意識が高まり、状態把握のための会話が増し、より連携がとれるようになりました。結果、利用者理解についてもクリアしています。

## ビオラ市ケ尾

適正な人員配置を行うために、業務内容の精査。

1. 個別性のある入浴介助をするための時間配分・スタッフの配置についての見える化。  
人員配置表の作成と周知により記録時間の確保の為の取り組み。会議時間と会議進行に関する見直しの取り組み。
2. 家事援助の導入で、業務の区別化。
3. 施設全体で医療知識を向上させて、医療的なトラブルを減らす。研修として薬の知識についての研修を取り組む。
4. 老朽化パソコンの入れ替え。効率アップの為のHDD⇒SSDへの入れ替えをおこなった。



## 横浜市加賀原地域ケアプラザ

ケアプラザでは、職種毎や少数での業務を担っており、個々にかかる負担は大きい。包括支援センターでは自主・共催・地域事業を計画、実施する際に、部署を越えて連携できる体制を構築している。すべての業務を個人で行うのではなく、計画書作成やチラシ作成、配布、周知活動において、他部署スタッフが担える箇所に関しては積極的に協力し、分散することで事業開催までの負担軽減と効率上がることで、より事業内容の検討に時間を使用できるようになっています。

その他、日々の相談や地域で開催される会議の報告書等、事後に全ての記録や報告書を作成するのではなく、同時進行で入力、作成ができるように、持ち運び用のタブレットの使用や、PCを更新し性能を上げたことで、手書きでの入力や、タッチパネルでの操作により、書類作成の効率を上げている。

部署間での連絡や、回覧については、メール仕分け設定により日に数十件届くメールを自動的に仕分けし、効率よくメールの対応ができるようになった。回覧については、今までは資料を一度プリントアウトし、回覧確認のチェック表を貼り付け回覧していたが、メールなどで添付された資料については、使用していないPCを回覧用のPCとして設定し、プリントレスによりコスト削減と、回覧用PCへは必要な情報が添付されたメールのみ転送されるため、効率よく情報共有が可能になった。

デイサービスにおいては、横長の建物の為、遠方にいる職員に指示を出す場合、その場まで行かなければいけなかった。(ご利用者の前で大声での指示は難しいため)そこでインカムを導入したことで、デイルームの状況やリスク管理において、遠くから一度に複数人に指示や報告、配置変更やヘルプの要請が容易になった。業務を止めずに発信できる事により、効率が上がっただけでなく、配置の偏りや死角の軽減により、安全管理にもつながっている。

## ビオラ市ケ尾ケアプラザ

- オンライン相談環境の整備  
相談や事業の多様性も考慮しオンライン相談環境の整備を実施。
- Zoomを活用したミーティング・事業の定期導入  
複数事業所との防災ミーティング開催や介護者のつどいなどの事業をハイブリッド形式で開催し移動時間等の削減。
- 包括相談記録の紙記載・保管から介護ソフトへ入力化し紙・保管場所低減(ビオラ市ケ尾CP)従来は、紙ベースに相談記録作成・保管をしていたが、直接カナミックへ入力することに変わり、紙・保管場所の低減を実施
- ICT活用による記録時間の短縮  
訪問先にてタブレットに記録入力しメールで事業所送付しコピーにより記録時間の短縮
- 老朽化パソコンのHDD入れ替えによるスピード向上による作業時間効率向上  
老朽化パソコンは、HDDアクセス遅延により動作が遅くなっていたが、HDDからSSDに入れ替えることにより動作スピードアップし、パソコン作業の効率向上につながった。

### ビオラ宮崎

- 包括相談記録の紙記載・保管から介護ソフトへ入力化し紙・保管場所低減  
従来は、紙ベースに相談記録作成・保管をしていたが、直接カナミックへ入力することに変更し、紙・保管場所の低減を実施
- ICT活用による記録時間の短縮
- 老朽化パソコンのHDD入れ替えによるスピード向上による作業時間効率向上

### こだなか

- 包括相談記録の紙記載・保管から介護ソフトへ入力化し紙・保管場所低減  
従来は、紙ベースに相談記録作成・保管をしていたが、直接カナミックへ入力することに変更し、紙・保管場所の低減を実施
- 老朽化パソコンのHDD入れ替えによるスピード向上による作業時間効率向上

### エヌアイ在宅サービスステーション

- ルートやサービスの見直しを毎週行い、効率よくサービスが提供できるような仕組みづくり。ホワイトボードの刷新。
- サービスの内容の確認と毎回の実績の入力で、月末処理に一時的な負担がかからないような業務調整。

### 3. SDGsを意識した活動を具体的にはじめる。

#### 中川の里

(特養・短期入所)

「活かすケア」の習得を基本とした介護サービスの進化に取り組み、入職間もない職員を除く全員の「活かすケア」認定初級以上の合格を果たし、中級へのアプローチが開始される年となった。

現状に満足せず、常に「もっと良くするには」という発想を持ち続けるよう啓蒙し、将来にわたり鈍化することの無い「質の高いサービス」提供を目指していく。

(デイサービス)

「続けたくなる楽しいデイサービス」を掲げ、回想療法を取り入れた「おとなの学校」の他、全国書道展への挑戦や活け花、カラオケ、麻雀、コーヒーの日などを、利用時間が自由に選べる「フレックス制」のもとに展開し好評を博している。選ばれるデイとして、現在、ご利用希望者が各曜日でキャンセル待ちに。

(居宅)

地域に根差し柔軟な対応を心がけ、コロナや周辺環境の変化にも動じず、包括からの相談も増えており信頼を頂けていると自負している。地域におけるポジションが確立され、質の高いサービスを継続的に提供できる風土が整ってきた。

今後、サービス提供事業所への建設的な助言にも注力したい。

#### 都筑の里

- すべての人に健康と福祉を  
積極的な緊急ショートステイの受け入れ
- 質の高い教育をみんなに  
職員が互いに講師となり施設内研修の実施  
活かすケアの習得者の支援
- 人や国の不平等をなくそう  
障害者雇用の積極的な受け入れ
- 平和と公正をすべての人に  
接遇委員会を立ち上げ直し、虐待など権利擁護に関して新たな意識づけの実施

## ビオラ三保

- ・ 障がい者の雇用を5名に増やし(1名は退職)介護現場における食事準備やシーツ交換など入居者のために仕事をする機会を増やすとともに介護職の入居者と関わる時間を増やすことができた(※ 8働きがいも経済成長も/障害者を含む全ての男性及び女性の完全かつ生産的な雇用)
- ・ 管理栄養士の加配により残菜管理をより徹底し食品ロスを減らすことができるよう業務の見直しを行い運用の準備を行った。(※ 12つくる責任 つかう責任/食品ロスを減少)
- ・ 車いすやベッド、その他の設備が故障した際は、他の故障品から部品をリサイクルし、すぐに買い替えとならないよう廃棄物削減に配慮した。(※ 12つくる責任 つかう責任/廃棄物の発生を大幅に削減)
- ・ 敷地内の植栽剪定で出た枝切れは暖炉の薪として使用しゴミの量を減らした。(※ 12つくる責任 つかう責任/廃棄物の発生を大幅に削減)

## ビオラ川崎

令和4年度、ビオラ川崎は、川崎市 SDGs 登録・認証制度における「かわさき SDGs ゴールドパートナー」として認められました。

以下、コミットメントです。

### ◆コミットメント

社会福祉法人 中川徳生会 ビオラ川崎は、川崎の地で、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいくことを宣言します。

私たちは、これまで介護サービスだけではなく教育や地域貢献、地域資源の活用など社会資源の一つとして取り組みを実践してきました。その活動はSDGsの目指すところと合致していたと思います。

しかし、その活動はコロナ禍で停滞しているのが現状です。

わたしたちは、私たちの「あるべき姿」を考えた時、このまま停滞しているわけにはいきません。いかなる状況であろうとも持続可能な方法で地域とともにある施設を目指し「地域コミュニティへの貢献」をテーマに取り組んでいきます。

### ◇現在行っていること/取り組みの具体的な内容

#### 1 災害時の協働

川崎市や地域住民、施設がともに災害を乗り越えることが可能な仕組みの構築。

川崎市社協 災害プロジェクト委員会のメンバーとして活動。

#### 2 地域社会とのコミュニケーション機会を設ける

地域住民や地域学生の職場・活動の見学や交流については、川崎市立向小学校と川崎市立東小田小学校の生徒と、オンラインで福祉交流を実施。

### ◇2030に向けた目標

1 災害時の施設利用者と職員の安全確保及び、2次避難所のスムーズな運営ができる

2 地域とのコミュニケーション機会が日常的にある、地域に開かれた施設となる

## ビオラ市ケ尾

- 電気エネルギーの効率化:エコキュートの見直し。  
空調設備のこまめな確認  
居室エアコンの更新の検討
- 資格支援で、質の高い教育をうけ、根拠のある介護を目指す。
- 食事の楽しみを持っていただくために、食事レクを継続する。
- 多職種との連携で、ご利用者様のよりよい生活の実現を考える。

## 横浜市加賀原地域ケアプラザ

ケアプラザという地域拠点として、地域住民が住み慣れた街で、自分らしく、孤立することなく、安心して住み続けられるように、子供から障碍を持っている方や高齢者まで、すべての世代の住民を対象に、地域と協力し様々な事業の展開や、情報の発信、地域の仕組み作りへの支援などにより、「住み続けられるまちづくりを」の実現に向けて活動しています。

住み続けられる街づくりの一環として、「自分が住んでいる街を知る」ことが重要だと考え、自治会加入率が低下している現在、回覧や掲示板、自治会の活動時に共有していた情報が行き届いていない。そこで、スマホ(SNS)を活用し、地域情報や啓発情報の発信を行っている。その他、ケアプラザに触れていただく機会を増やすことで、ケアプラザを通して地域を知る機会を増やす取り組みも行っている。特に子供が多くケアプラザに触れることで、その親も含めた情報の浸透に期待ができることから、子供向けのイベントや事業として、夏はカブトムシ採取やカブトムシの配布eスポーツ(ゲーム大会)や夏休みには自習室(宿題対策)やワークショップを開催。地域の企業や障害者施設や地域の担い手と交流する機会も増やしました。このように子供の時から地域に触れる機会を増やし、住んでいる地域への理解と興味を持っていただく取り組みを積極的に開催し、将来の担い手の育成として継続することで、将来的に見守りやボランティア等の担い手不足解消への期待と、地域福祉の発展により、地域の皆様が助け合い、誰もが安心して住み続けられるまちづくりを目指しています。

## ビオラ市ケ尾ケアプラザ

- 非常用発電機としてポータブル電源導入  
万が一の時の為の準備としてポータブル電源の導入。太陽光充電にも対応
- 環境に配慮し電動自転車の継続活用の為に自主的な定期的にメンテナンスを実施し、故障未然防止を実施  
環境に配慮した電動自転車を有効活用するためには、大きな修理に至る前に早めに故障を検出することが大事であるので定期的にメンテナンスを実施し未然防止に努めるようにした

## ビオラ市ケ尾ケアプラザ

- 非常用発電機としてポータブル電源導入  
万が一の時の為の準備としてポータブル電源の導入。太陽光充電にも対応
- 環境に配慮し電動自転車の継続活用の為に自主的な定期的にメンテナンスを実施し、故障未然防止を実施  
環境に配慮した電動自転車を有効活用するためには、大きな修理に至る前に早めに故障を検出することが大事であるので定期的にメンテナンスを実施し未然防止に努めるようにした

## ビオラ宮崎

- 非常用発電機としてポータブル電源導入  
万が一の時の為の準備としてポータブル電源の導入。太陽光充電にも対応
- 環境に配慮し電動自転車の継続活用の為に自主的な定期的にメンテナンスを実施し、故障未然防止を実施  
環境に配慮した電動自転車を有効活用するためには、大きな修理に至る前に早めに故障を検出することが大事であるので定期的にメンテナンスを実施し未然防止に努めるようにした

## こだなか

- 法人初のEcoカー導入の為、発注  
環境にやさしいハイブリッド車を法人初導入の為 発注。

## エヌアイ在宅サービスステーション

- ご利用者様一人一人の人権が尊重されるように努め自宅での生活をサポートします。  
どのような背景のご利用者様も平等に行うように努めています。

# I. 中川徳生会の特徴的な取り組み・成果

## ～安心してご利用いただける体制と その取り組み～

中川徳生会では、より多くの入居者さま・ご利用者さまに安心・快適な毎日を過ごして頂くために先進的な取り組みや特徴的な取り組みを行っております。ここでは、そんな取り組みの内容と、成果の一例をお伝えいたします。

### (1) 医療体制の充実

#### 24時間看護師の配置

**夜間の看護師配置**を他法人に先駆けて導入しており、24時間体制での質の高い医療ケアを提供しています。

※ビオラ市ケ尾：2014年～、ビオラ三保：2015年～、ビオラ川崎：2020年～

#### 重度医療が必要な方の受入れ

中川徳生会では、重度の医療処置が必要な方についても積極的な受け入れを行っており、2022年度においては**特養5施設（合計474床）にて437名**（令和5年3月31日現在）が、生活されています。その他、様々な医療行為が必要な方のご入居について受け入れを行っております。

##### 【対応可能な医療行為等一覧】（※）

- |                |             |
|----------------|-------------|
| ・胃ろう、腸ろう（経管栄養） | ・膀胱留置用カテーテル |
| ・日中、夜間の痰の吸引    | ・導尿         |
| ・在宅酸素（HOT）     | ・腎瘻         |
| ・吸入（ネブライザー）    | ・膀胱瘻        |
| ・インスリン注射       | ・人工肛門       |
| ・糖尿病（血糖値測定）    | ・摘便、浣腸      |
| ・気管切開          | ・褥瘡処置       |
| ・人工透析          |             |
| ・常時の点滴         |             |
| ・終末期ケア         |             |

※施設により対応可能な医療行為は異なります

# 新型コロナウイルス感染症／予防と対策

## 新型コロナウイルス感染症

2022年度も世界中が新型コロナウイルス感染症に翻弄されました。当法人では感染症の予防対策を怠ることなく、従来以上に力を注ぐようになりました。また万一発生した場合でも施設内で拡がるのを防ぐため、各施設で積極的な取り組みを実施しています。

## 感染症対策 取り組み事例

- ・ 職員体調不良時の対応の徹底（発熱基準値以上で出勤停止）
- ・ 職員出勤時の手洗い・うがい・手指消毒及び体調チェック表への記入
- ・ 入居者さまの毎日検温実施、発熱他体調不良時の居室隔離等の基準設定
- ・ 居室隔離対応時の防護基準の設定
- ・ 看護職員による健康相談
- ・ 感染症対策の研修・勉強会継続（基本知識・実践研修・マニュアル整備・更新）
- ・ 職員の常時マスク着用、入居者さまには必要に応じてマスク着用と検温実施（ご家族さまや外部の方にも検温・マスク着用及び手指消毒を依頼）
- ・ 吸引・口腔ケア・食事介助の際にはフェイスシールドやゴーグルの着用
- ・ 施設内での職員移動ルートをフロアごとに設定
- ・ テーブルにアクリル・塩ビのパーテーション
- ・ 各施設内にアルコール消毒、うがいセット等の設置
- ・ 次亜塩素酸ナトリウムを使用し、施設内のドアノブ・手すり・パーテーション等の他、テンキーなど手の触れる部分の消毒
- ・ 1日複数回の全館換気
- ・ 送迎車内の換気・消毒

※施設の状況により対応は異なります



## 感染症発生時対応

- ・居室隔離対応やゾーニングの徹底など感染経路の遮断
- ・面会制限の実施（新型コロナ感染下では通常時も継続）
- ・状況に応じサービスの中止
- ・役所と連携を図った感染拡大防止策の実施
- ・周辺事業所や病院との情報共有

なお2022年度の主な感染者数は特養5施設の入居者さま（合計474床）のうち

- ・ 新型コロナウイルス： 208名 （2021年度：21名）
- ・ インフルエンザ： 2名 （2021年度：0名）
- ・ ノロウイルス： 0名 （2021年度：0名）
- ・ 疥癬： 3名 （2021年度：6名）

となっており、新型コロナを除くと感染者を抑え込むことが出来ました。

## (2) 管理栄養士による栄養ケアマネジメント

### 栄養リスクの改善

各施設に配置された管理栄養士が、日々入居者さまの栄養状態のモニタリング※と改善に尽力しております。

◎2022年度では特養5施設の入居者さま（合計474床）のうち  
196名の入居者さまの栄養リスクが改善されています。  
（2021年度比：149名増）

翌2023年度以降も、引き続き管理栄養士によるミールラウンド（食事観察）や多職種連携による経過状況の共有を通じて、入居者さまの栄養リスク改善に努めて参ります。

※栄養リスク：栄養ケアマネジメントにおいて、入居者さまの栄養に対するリスクを3段階（高リスク・中リスク・低リスク）に分け、評価を行う。

### 食事形態の改善

日々の食事をおいしく、且つ入居者さま自身に合った形態で召し上がっていただくため、施設では様々な食形態での食事提供を行っております（常食・刻み食・ペースト食など）。その中でも、出来るだけ入居者さまが常食に近い形態で安全に食べられるよう、歯科と協働して食事形態の改善に取り組んでおります。

◎2022年度では特養5施設の入居者さま（合計474床）のうち  
57名の入居者さまの食事形態の改善に成功しています。  
（2021年度比：31名増）

### (3) 施設で幸せに生活するための「活かすケア」と「看取り」の取り組み

施設へ入所しても「自分で出来る事は自分で行う」。そうすることで意欲的に毎日を過ごすことができ、より長く元気に過ごすことが出来る。そのような想いを実現するための「活かすケア」の取り組み。そして、最期の時を安らかに迎えるための「看取りケア」の取り組み。中川徳生会では、これらの取り組みを通じて、入居者さま、ご家族さま、そして周りの方々が、一日一日を幸せに送れるようサポートしています。

#### 「活かすケア」の取り組み

「活かすケア」とは『入居者さまの能力を最大限活かした介助』を提供することで、介助量を最小限に抑え、可能な限り自分で動作ができるようにするための介助技術です。活かすケアを行うことで、過剰な介護が減り、入居者さま本人の自立支援と職員の負担軽減を目指しています。

各事業所にて機能訓練指導員（理学療法士等）が講師となり、活かすケアの講習を定期的  
に開催しています。

活かすケア講習の様子



2022年度では特養5施設の入居者さま（合計474床）のうち  
41名の入居者さまの要介護度が改善しました。

（2021年度比： 2名増）

◎現在、125名の介護職員がこの活かすケア検定の初級以上を有しています。

(2021年度比：7名増)

- ・活かすケア検定「初級」：87名(2021年度比-6名)
- ・活かすケア検定「中級」：35名(2021年度比+12名)
- ・活かすケア検定「上級」：3名(2021年度比+1名)



2023年度以降も、引き続き活かすケア講習の実施や活かすケア検定の資格取得者を増やしていく取り組みを通じて、利用者さまの自立支援に努めて参ります。

## 「看取り」対応の取り組み

施設における「看取り」とは、医師が一般に認められている医学的知見に基づき「回復の見込みがない」と診断された方が、住み慣れた場所（施設）で、慣れ親しんだ職員・ご家族に見守られながら人生の最期を迎えられることです。ご本人の意思（ご本人の意思確認が困難な場合はご家族の意思）を最優先とし、施設内全スタッフの協力体制のもと行われております。

◎2022年度では特養5施設で74名（本入所の方）の看取りケアを行いました。

(2021年度比：17名減)

## (4) 特徴的なデイサービスの取り組み

中川徳生会では、利用者さまのニーズに合わせた特徴的なサービスを提供しております。ここでは各施設で行われているサービスの内容をお伝えします。

### 都筑区民に愛される3つのデイサービス

中川徳生会は3つのデイサービス施設（中川の里・都筑の里・横浜市加賀原地域ケアプラザ）がありますが、その3つともが都筑区内の施設です。

デイサービス事業を通じて、地域の皆様の生活をサポートしております。3つの事業所で**合計15台の送迎車両**が毎日稼働し、利用者さまのご自宅まで送迎を行っています。

都筑区の要支援・要介護者総数は7531名（※1）。そのうち、**中川徳生会でデイサービスを利用された方は266名**（※2）つまり都筑区の要支援・要介護者のうち**約3.5%の方**に中川徳生会のデイサービスを選んで頂いている事になります。

当法人のデイサービスは、常に顧客ニーズに応えられるよう柔軟な対応を心掛けています。例えば中川の里の「フレックスデイサービス」では、4時間サービスの日もあれば7時間の日も設定できるなど、時間的な柔軟性を高めたサービス提供を行なっています。その結果、ご利用者さまだけでなくご家族さまからも好評を得ています。

※1 横浜市統計：都筑区の要支援・要介護者数より（令和5年3月時点の数値）

※2 令和5年3月度 3つのデイサービス施設の実利用者数

### 特徴① 自由に利用時間を選べる

利用者さまとご家族さまのニーズに合わせて、3時間～最長10時間まで利用時間を自由に選択できるサービスを行っております。例えば、利用開始時は3時間からスタートして徐々に時間を延長していく方や、在宅ではお風呂に入れられない方が午後から入浴のため利用されるなどあらゆるニーズにお応えしています。また、夕食の提供も行っております。

※名称：フレックス・デイサービス（中川の里）、セレクト・デイサービス（都筑の里）、マルチ・デイサービス（横浜市加賀原地域ケアプラザ）

## 特徴② 学校形式を取り入れる

趣味活動の一環として、授業形式の脳トレや回想法を用いた「おとなの学校」サービスをスタートいたしました。“高齢者は遊びたいんじゃない、学びたいんだ”をキーワードに、日々利用者さまが勉強に励んでおられます。利用者さまからは「家での会話が増えた」「家で自主的にクロスワードを始めた」など意欲向上の成果も出ています。

## 特徴③ 機能訓練（リハビリ）の充実

都筑の里では「機能訓練特化型」のデイサービスを行っております。運動をメインプログラムとし、利用時間も選ぶことが可能です。常勤の理学療法士を複数名配置し、利用者さま個々の能力を評価し最適な個別機能訓練を作成・実施することで身体機能の維持・向上を目指しております。

デイサービスエリアとリハビリ機器



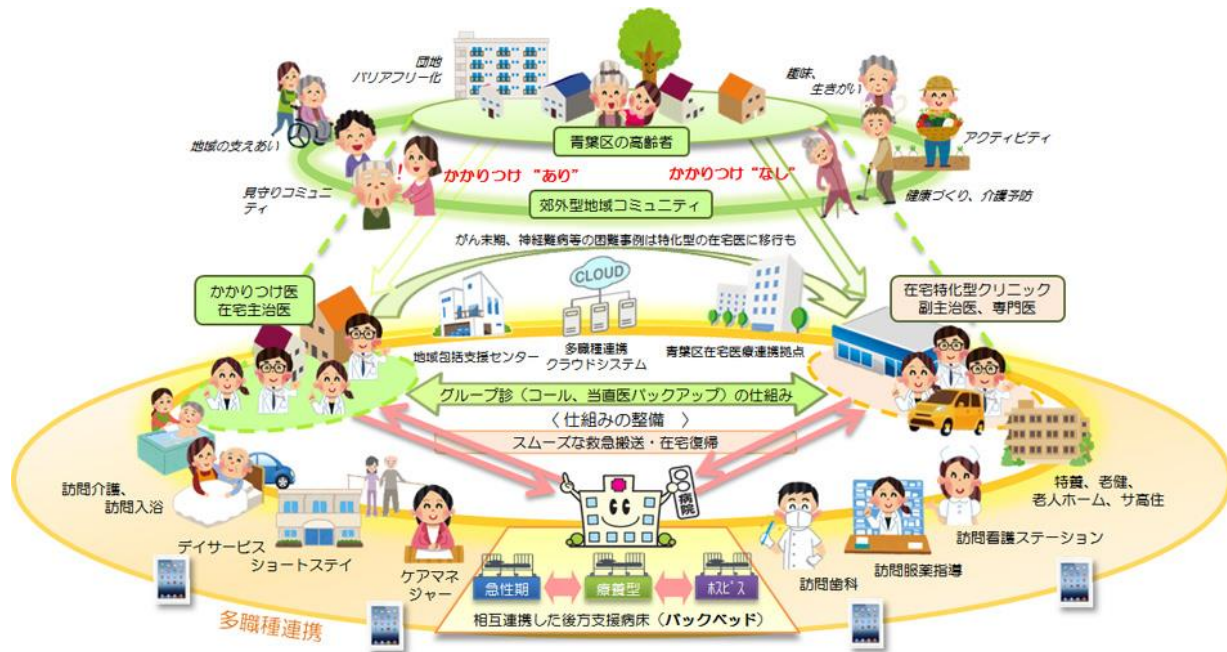
# (5) 地域包括ケアシステム

## 青葉区「あおばモデル」の担い手

地域包括ケアシステムとは、要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最後まで続けることが出来るよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される仕組みの考え方です。

中川徳生会では、さまざまなサービスがあります。特別養護老人ホームをはじめ、通所介護、訪問介護・看護、居宅介護支援事業、そして地域包括支援センターなど多岐に渡ります。

特徴的なのは横浜市青葉区市ヶ尾町では当法人の多くの事業が一つの建物に集約されている点。横浜市青葉区で構築しようとしている地域包括ケアシステムである「あおばモデル」の一翼を担うことができます。



出典: 横浜市青葉区ケア部会  
<https://www.aoba-caremap.org/caremap/model/>

## (6) 地域活動交流支援の取り組み

中川徳生会では、5つの事業所で地域活動交流支援事業を展開しており、地域の皆様が利用できる活動などの場として積極的に活動しております。

ここでは、2022年度に行われた横浜市地域ケアプラザでの活動内容をご紹介します。

### 横浜市加賀原地域ケアプラザ

数年にわたる新型コロナウイルスの蔓延により、地域活動は減少し、特に高齢者に関わる老人会やサロン、サークル活動が活動休止や閉鎖に追い込まれてしまった。感染症の理解や対策が進んだ2022年も活動再開が進まず、早期の活動再開支援と、地域の活性化に対する支援が求められた1年となりました。

その他、地域活動の減少による地域住民の地域離れも深刻な問題となり、活動に触れなくなった影響で地域を知る機会が著しく減少し、結果として、地域福祉の担い手不足に繋がっている。

そこで加賀原地域ケアプラザは、地域の活性化を目標に、高齢者世代のみではなく、すべての世代や障がいをお持ちの方も、地域から孤立することなく、自分らしく生活ができる街づくりに取り組みました。

#### 【活動再開支援】

介護予防を狙いとした地域交流の場である老人会やサロンなどは、2020年コロナ禍によりほぼ全ての団体が活動を休止。活動再開に向けて新型コロナウイルスに関する最新の情報をチラシ等を作成し配布を行ったり、団体ごとの特徴を把握し、最善の感染対策の検討を続け、令和4年7月には約6割が活動を再開したが、残りの4割は「感染への危惧等」により休止を継続していた。

そこで、担当エリアである、佐江戸加賀原地区・川和地区・池辺地区合同で、「老人会・サロン交流会」を実施。活発的な老人会の事例共有や、地域の体操ボランティアとの顔つなぎを行うことで、担い手不足や活動内容に不安がある団体でも、地域のボランティアを活用し、担い手の負担軽減と再開に向けての不安の解消につながりました。

残念ながら支援が実らずに、解散を選択する団体は多く存在します。私達加賀原地域ケアプラザでは、生活支援COを中心に、定期的に地域団体とのコミュニケーションを図り、状況把握と、必要時は適切な活動再開支援を継続していきます。

#### 【担い手不足への取り組み】

地域では担い手の超高齢化により、深刻な「担い手不足」に陥っています。その大きな原因として、

- ・担い手の負担が大きい
- ・地域で行われている地域福祉活動や地域の資源、特徴を知らない方が多い事が考えられます。(担い手の負担軽減対策)
- ・地域ボランティアの活用として、地域ボランティアの活動紹介や顔合わせを行い、特に団体役員の負担軽減につなげる。



・団体役員が今までは電話での連絡調整や報告を個々に行っていた。そこで、スマホアプリの「LINE」を活用し、グループ作成での一斉送信やスタンプでの意思確認等を目的にスマホ講座を開催。ボランティア団体では現在スマホを活用し、スムーズな調整が可能となりました。

・隙間時間やできる人が行える環境作りを提案。

団体役員をはじめ、負担は特定の方へ集中する傾向がある。その状況を目の当たりにしているため、自分には難しいと考える方が多い。そこでスマホの活用と併せて、できる時に、できる事だけ、できる人が行える環境作りを提案。負担を分散することで継続しやすい団体運営につなげています。

(地域情報の周知活動)

・地域住民の多くは自分が住んでいる地域で、どのような地域福祉活動が行われているかを知りません。

子育てで悩んだ時、高齢になった時の見守りなど、地域住民同士が支えあえる取り組みの存在を、必要になった時にようやく初めて知ることが多い現状です。

上記に加え、自治会・町内会未加入世帯の増加により、自治会や地区社協、地域ケアプラザが発行する情報が回覧されないという問題もあります。

未加入者へ情報を届ける手段を考え、まずは、地域に触れていただく機会を増やし、地域に興味を持っていただくため、加賀原地域ケアプラザでは「子供」に焦点を当て、子供がケアプラザに触れる機会を増やす取り組みとして、「カブトムシの配布」「昆虫の飼育講座」「カブトムシ採集」「夏休みの学習支援」

「ワークショップ」「夏祭り(昆虫食や販売など)」「eスポーツ大会」等を開催。

子供がケアプラザに触れる機会を増やすことにより、ケアプラザの情報はその家族へ届きます。家族がケアプラザを知ることによって、地域での活動を身近に感じることができます。結果としてケアプラザの周知活動に繋がり、ケアプラザから発信される情報に興味を持っていただける方が増加しました。

・情報発信として、SNSの活用を力を入れました。ケアプラザより(書面)の回覧と配布は継続し、Twitterやホームページでの情報発信を強化。一方的だった情報が、SNSのつながりで広範囲に情報が拡散できる状況となりました。

・地域団体への支援として、ホームページの作成を提案やSNSを活用した活発的な情報発信の仕組みを一緒に検討しました。

その他「みんなで考えよう お互いを支えあう地域づくり」をテーマに全4回の地域づくりフォーラムを開催。地域活動について、ゴミ屋敷にならないための片付け講座、家族・自身が認知症になった時に、地域でどう暮らすか、ちょボラ(ちょこっとボランティア※地域ボランティア団体)で地域が助かる事を開催し、地域への理解や、ボランティア活動(担い手)の必要性の理解に繋がりました。

### 【人材育成と情報の周知】

ケアプラザでは自主事業の開催、地域活動や事業の支援、情報発信、講座の開催を各地域を対象に行っています。しかし一人でも多くの住民に届けるためには人員的にも、開催場所も、日時も足りません。

そこで自分たち地域ケアプラザと一緒に、時には講師やボランティアとして活動できる担い手の人材育成に取り組みました。

(ケアプラザ開催で日時限定では参加数は見込めない)

加賀原地域ケアプラザで事業や講座を開催する場合、立地の問題で特に高齢者は来所が困難であった。

そこで、地域で開催されている、既存の団体活動や会議を活用することで、ケアプラザへの来所の負担が

無くなり、より多くの地域住民に対して情報が発信できるようになった。

(参加者全員が講師であり、情報の発信者となる)

地域活動を活用しても、開催できる事業や講座は限られます。そこで、団体役員を中心に、わかりやすく

実施しやすい内容に調整を行い、ケアプラザ職員が不在でも、独自で健康体操や講座が開催できるように

支援を行いました。この取り組みにより、介護予防や認知症予防等の取り組みが、単発ではなく、継続

できる仕組み作りの兆しが生まれました。

その他、事業や講座の内容を、身近な人へ伝えることの必要性を常に伝えていきました。

その結果、内容を家族へ、そしてご近所のお友達へ、全てではありませんが、人から人へケアプラザから

発信された情報が広がっていくことが実感できる取り組みとなりました。

地域ケアプラザは地域の拠点として、地域を知り、区役所、区社協、地区社協、自治会、町内会、地域

住民の皆様と協力し、地域福祉活動の発展に取り組んでいきます。

【ケアプラザ内連携 自主事業】

事業名	事業目的	事業内容・実施時期	実施回数	延べ参加人数
障害の啓発事業 「みんなでおしゃべりしませんか」	地域住民向けの障害啓発。まるっとプロジェクト共催。 障害のある方やそのご家族が気軽に相談、訪問できる関係づくり。共生社会の実現。	5月21日 川和団地集会所。川和地区にあるカブカブ川和と川和団地だんちらんととの交流。	1	38
ケアプラのお仕事 講話	小学生とその親世代が、ケアプラザに興味・関心を持ち、来館につながる。 小学生の頃から高齢者・障害者と関わる大切さや関わり方の注意点を学ぶことで、介護・福祉の仕事に興味・関心を持つ。	7月4日 都田西小学校4年4組のクラス、総合的学習の授業の一環で実施。ケアプラザの館内の様子を動画・寸劇で解説し、仕事内容、高齢者・障害者と関わる時の注意点、高齢者と関わる機会について講話を行った。	1	
スマホ講座	地域でスマホを使いこなせる人が増え、様々な活動にスマホを活用できるようになり活動が活性化する。	・7月13日 川和小学校コミュニティハウス ・10月31日 都田小学校コミュニティハウス ・加賀原地域ケアプラザ ・各ボランティア団体	1	10

【地域活動交流 自主事業】

(ケアプラザ夏祭り) INSECTOR2022inK AGAHARA	子ども向け企画。子育て世帯など、普段ケアプラザを利用しない年齢層の方へケアプラザを周知する。	8月11日開催 地域の子どもに関わる団体による模擬店や、イベントを行う。子育て世代が興味を持ちやすいカブトムシなどの展示。	1	437
べるえきっふ「畑部」		「畑部」5月7日、6月11日、7月9日、9月10日   10月8日、11月12日、12月10日、2月11日	8	68
べるえきっふ「文化部」(絵画教室)	障害児者余暇支援活動。 地域の方と障害のある方、そのご家族が顔の見える関係になることを目的とする。 誰でも参加できる事業を行い、年齢や障害の有無問わず集える場のひとつとする。	「文化部(絵画教室)」5月28日、7月23日、9月24日、11月26日、1月28日、※3月25日	5	65
べるえきっふ「運動部」(ポッチャ)		「運動部(ポッチャ)」8月27日、10月22日、12月24日、2月25日	4	17
川和艺术展	川和地区社協、川和地区の福祉施設と共催し、地域活性のためのアート展を開催。	・10月13日～11月中旬 ・6月13日 ボランティアとの顔合わせに立ち会い。	1	3
みどり養護学校新学 分教室生徒作品展	都筑区内にある養護学校との連携のきっかけとして、ケアプラザ内に作品展を依頼。地域の方に養護学校について知っていただく機会に。	6月10日～7月28日 ケアプラザ内掲示スペースに、作品展。8点。	1	0

事業名	事業目的	事業内容・実施時期	実施回数	延べ参加人数
サンサンひろば (旧 すくすくプラザ)	親子の居場所作り。親子同士の交流の場。 参加者同士、参加者とケアプラザの情報交換の場。 子どもが育っていき、次の支援の場や仲間と繋がられるような、話しやすい雰囲気作り。	毎月第2・4木曜日。 多目的ホールを解放する。 5月みどり保育園協力事業「あつまれつづきのニューフェイス」、10月ヘルスマイト共催事業、12月クリスマス会、2月都筑消防署協力事業「乳幼児の救急救命」、3月歯科衛生	17	255
みんなのチルコロ文化祭	子育て支援センターポポラと共催し、多世代交流を行う。また、子育て支援センター利用者にケアプラザを周知する。	6月～7月。ポポラサテライトにて、加賀原地域ケアプラザ登録団体の作品展示。また、サブコーディネーターと貸館団体によるワークショップの開催。各団体との事前打ち合わせ1～2回。定員各回5名。 6月15日「俳句を楽しむ」、6月21日「消しゴムハンコを体験」、7月2日「絵手紙体験」、7月27日「ちりめんてんぷら作り」	4	68
パパママ赤ちゃんのための健康講座	0歳時をもつ保護者向けの体操と栄養の講座	5月6日 運動編(8名) 5月31日 食事編(1名)	2	9
夏のフリールーム	夏の暑い時期、外遊びができない時間帯に子育て中の世帯の居場所としてケアプラザを開放する。 子育てに関わる支援者や障害者支援施設との関りの機会を作る。	8月29日～31日。ケアプラザ多目的室。 29日 川和地区主任児童員によるワークショップ 30日 カブカブ川和の出張喫茶。 31日 子育て支援センターポポラとワークショップ	3	32
おさるんリトミック	昨年度すくすくプラザの中で行ったところ定員オーバーしたため、今年度は別だてで企画。集客が見込めるため、普段ケアプラザが利用したことのない方への周知につなげる。	9月29日、3月30日 リトミックの先生を招き開催。また、先生が鴨池公園ログハウスでも活動しているため、ログハウスにも協力いただき、公園の紹介をしてもらう。	1	25
みゃーごとちゅーずのお出かけ図書館	本に触れる機会が増え始める年齢の子どもに絵本との出会いのきっかけを作る。	6月18日 都筑区図書館と区政推進課の出張図書館。	1	6
母の日フラワーアレンジメント	中高生向けの事業として実施。普段ケアプラザを利用しない年代の方に向けてケアプラザを周知する。	5月8日 ケアプラザに登録している貸館団体を講師に招き開催。	1	15

事業名	事業目的	事業内容・実施時期	実施回数	延べ参加人数
放課後学びの広場	学校地域コーディネーターが主催する学習支援に参加し、連携を深める。また、学生と接点を持ち、地域の中学生のいる世帯と情報交換ができる関係になる。	毎月第2・4日曜日 英検前には対策講座を行う。地交COにて指導ボランティアの調整。 試行期間中のため、範囲を絞って周知しており、参加者は毎回1～3名程度。	18	7
横浜市歴史博物館にいこう	横浜市や自分の住む地域の歴史を知り、地域愛を醸成する。	7月16日 歴史博物館学芸員による解説と自由見学。	1	9
カブト虫・クワガタの飼育講座・バトル大会	小学生向け企画。親子で参加できる事業を行い、普段ケアプラザを利用しない年齢層の方へケアプラザを周知する。	8月11日開催 自分で育てたカブトムシで木登り大会をする。親子で参加できる。	1	20
夏の自習室	夏休み中の子どもの居場所として、ケアプラザを解放する。また、地域活動の担い手発掘のため、ボランティアを募集。また、地域の活動団体やメイドイン都筑加入企業とワークショップを開催する。	8月12日～20日。 12日ゲーム大会、13日タイルコースター作り、14日折り紙、15日プログラミング、16日木工キーホルダー、18日キメコミ工作、19日カルトナージュ (回数と人数は自習室とワークショップを合わせた人数)	9	80
藤原先生のお絵描きワークショップ	小学生向けの事業。障害者通所施設「カブカブ川和」利用者を講師として招き、子どもなどの地域の方と障害のある方との関わりの機会を創出。	8月22日 都田小学校コミュニティハウス 8月24日 加賀原地域ケアプラザ 8月25日 川和小学校コミュニティハウス	3	18
干支の置物	例年行っている事業。若い世代の方も参加しやすい事業のため、継続して開催している。	11月開催。 貸館団体に協力依頼。	1	9
Let'sポッチャ	・普段利用が少ない世代、利用者層へのケアプラザのPR。 ・ケアプラザ圏域を超えた活動を行うことで、隣接したエリアの状況を知る。	10月30日 都筑地区センターにて初心者向けポッチャ大会。 ラポール、VASEL、地域のボランティアの協力。	1	26
貸館団体大掃除	貸館団体交流会では人数の関係で代表者のみの参加となるが、団体全体でできる活動を行うことで参加者の多くが他団体と知り合いとなる機会を作る。	6月…中止 11月30日実施	1	26

【包括支援センター 主任ケアマネジャー事業】

事業名	事業目的	事業内容・実施時期	実施回数	延べ参加人数
在宅サービスを知ろう！	介護保険の住宅改修・レンタルについてのメリット・デメリット	佐江戸ライブタウン老人会員向けに講座	1	12
地域フォーラム	地域住民への地域活動の勧め 地域の取り組みや今後必要な地域活動を提案 地域の人材育成 ちょっとボランティアの人材確保 育成	8/13 佐江戸会館で、地域の活動を知ろう！木彫りキーホルダー	3	67
ささえあい隊	情報交換会	池辺川内地区ボランティア講座を受講した住民がR4・6月に立ち上がる。情報交換会内容・企画立案	3	47
高齢者虐待の防止	ケアマネジャーが虐待都法のポイントと通報についての対応を学ぶ	虐待と思われるケースやなりそうなケースをCMの目線で早期発見し、その支援方法を学ぶ。	1	15
地域活動を知ろう！	ケアマネジャーに地域活動の理解を深めて頂き、利用者が地域の中で暮らしやすいように支援方法を学ぶ。	都筑区内を担当しているケアマネジャーに地域のインフォーマルサービス団体の活動のいきさつや内容を紹介	1	21
ICFを学ぼう！介護予防プランに生かそう	地域包括ケアシステムの構築の中で、CMの役割は多様な生活支援サービスを効果的に位置付ける必要がある。予防プランの書き方講座。	保健師との共催事業。都筑区内を担当しているケアマネジャーに主任CM中村先生を迎えて業務に役立つプランのポイントについて学ぶ。	1	31
支援者会議	各地区のケアマネジャー事業所と困難事例となるケースについて検討会議	川和・池辺地区担当者精神疾患・ターミナル・介護拒否等の利用者やその家族について対応方法を検討	3	14
事例検討会	担当地区ケアマネジャー3事業所との勉強会	自宅生活の限界ヲわかろうとしない家族の支援	1	10
予防従事者研修	保健師と主マネの協働で予防プラン作成に伴うポイント研修	介護予防ケアマネジメントと研修	1	31
ケアマネサロン他機関との連携連携講座	精神保健家族とのかかわり方講座	こころ野施設長による精神保健講座		
新任研修	新任ケアマネジャーへの研修	精度・インフォーマル・医療知識を学ぶ		
連絡会	都筑区主任ケアマネジャー連絡会	民生委員との個人情報を活用した見守りについて		
ケアマネサロン医療連携講座	ケアマネジャーに正しい医療知識・医療職との連携を学ぶ	あすなる整形外科宗貞Drに高齢者の骨折についての講座	1	18

【包括支援センター 社会福祉士事業】				
事業名	事業目的	事業内容・実施時期	実施回数	延べ参加人数
男の遺言研究会	山下地域ケアプラザ圏域と加賀原地域ケアプラザ圏域の住民に対して自筆遺言作成について学ぶことで自分で遺言書が作成できるようになる	山下地域ケアプラザにて男の遺言研究会を5月から開催 5/11,6/8,7/13,9/14,10/12,11/9、1/11、2/8、3/8	8	77
介護者のつどい	介護者の負担を少しでも軽減する。ピササポートを通じて他にも苦勞していることを知って、共有してもらおう。介護の悩み解決のためのアドバイスの場を設ける。	・参加者同士の茶話会 ・CP職員や講師による、日々の介護に役立つ講座 ・基本は、毎月第4木曜日、13:30～15:00	9	31
司法書士巡回相談会	気軽に相談できる司法書士の機会を設け、成年後見制度や相続について、少して専門職に相談できるように啓蒙。	司法書士会協力により、6包括合同で各ケアプラザっ巡回で司法書士の無料相談会を開催。今後について専門職に相談したい利用者などより相談あり。	1	2
認知症サポーター養成講座「イトーヨーカドーららぽーと横浜店」	認知症サポーターを広く普及させる為	認知症サポーターの養成を広く普及する為、イトーヨーカドーららぽーと横浜店の従業員向けに開催。開催時期は6月21日。予定では四半期に一度開催予定。9月27日2回目の実施。	2	31
税理士無料相談会	東京税理士会緑支部協力で税理士による成年後見講座と30分の無料相談会を実施。	東京税理士会緑支部共催で税理士による成年後見講座と30分の無料相談会を実施。開催日は9月21日	1	3
[終活講座]エンディングノート	「元気なうちに終活をしてさらに充実を！」都都地区のエンディングノートを使って、もしもの時に役立つノートとしての必要性・書き方を学びながら終活に必要な情報を毎回様々な視点で情報発信も行っていく。		59	123
川和団地出前講座(介護保険について学ぼう)	エリアの中でも、特に高齢化率の高いレイアの地域住民に向けて講座を行い、スムーズな相談につなげていくため。	・介護保険の申請や認定までの流れ ・介護保険サービスだけでなく、その他の社会資源に関して、紹介 ・7/26(火)に開催予定	1	7
ふれあいたいサロン向け研修	ふれあいたい会員のスキルアップや、ケアプラザとの連携強化に繋げていく。	・福祉用具の活用の仕方について学ぶ(VRを活用や)	0	0
つづき亭(友愛サロン)出前講座	老人会サロン参加者へ出前講座を行い。介護保険の知識や消費者被害や詐欺被害防止などの啓蒙活動が目的。地域包括の相談窓口の周知。	・6/23消費者被害出前講座 ・9/17防災の話	2	22
ライブタウン(和サロン)出前講座	老人会サロン参加者へ出前講座を行い。介護保険の知識や消費者被害や詐欺被害防止などの啓蒙活動が目的。地域包括の相談窓口の周知。	・9/3介護保険について出張出前講座を開催。	1	8
星谷老人会出前講座	老人会サロン参加者へ出前講座を行い。介護保険の知識や消費者被害や詐欺被害防止などの啓蒙活動が目的。地域包括の相談窓口の周知。	6/30消費者被害出前講座を開催	1	10
地域遊学(出前億座)終活講座	地域遊学参加者へ終活講座を行い、終活へ知識習得や今後のライフプランについて、一人一人考えてもらうようにする	5/21終活講座を開催	1	16
認知症ミニフォーラム	認知症に関する基本的な知識 講演:認知症の妻と暮らす地域にある社会資源	認知症になっても地域でどう暮らしていくか	1	29

【包括支援センター 保健師事業】

事業名	事業目的	事業内容・実施時期	実施回数	延べ参加人数
ロコモ予防体操 (365歩のマーチ体操)	住民の健康づくり(ロコモ予防) 佐江戸町さわやかステップ体操の周知	4月29日 佐江戸町サロン:隣人会にて実施。 ハマトレを参考にしたストレッチと、音楽に合わせた365歩のマーチ体操	1	10
オーラルフレイル予防講話	住民の健康の意識向上	5月14日 川和町サロン「つづき亭」にて実施。 神奈川県のアールフレイルハンドブックを活用し、講話と口腔体操を実施。 その他も状況に応じて、各地区のサロン・老人会等で出前実施予定。	1	10
体力測定会 (元気づくりステーション さわやかステップ 支援)	代表の高齢化、参加者の減少を受けて、新規参加者の獲得と担い手の発掘ができるよう、自治会・老人会・地域住民に働きかけるなどして、体力測定会を開催。	5月26日 元気づくりステーションの活動の一環として、佐江戸会館にて実施。身長・体組成・血管年齢・片足立ち・歩行速度などの項目を測定。 11月24日にも同内容を実施予定。	1	30
元気づくりステーション交流会	元気づくりステーションの担い手同士の意見交換・モチベーションの維持・向上	6月2日 都筑区内の全ての元気づくりステーションが参加し、意見交換会実施。包括はファシリを行う。	1	35
健康フェア	住民の身近な場所で行う健康測定会のイベント コロナ禍で活動が中止していたが、感染対策を十分に行ったうえで2年ぶりの再開となった。	7月3日 都田小学校コミュニティハウス主催の健康フェアに参加。企画段階から介入し、コロナ禍で感染対策に留意して行う方法を検討した 身長・体組成・骨量・血管年齢等を測定した	1	45
体操ボランティア育成講座	地域人材の発掘・育成を目的とした、ハマトレを教える講座。	7月6日、13日、27日の3回講座。ハマトレ指導講師による講座と、ロールプレイ・グループワーク。包括はファシリとして参加。	2	60
バランスよく食べる栄養講座	住民の健康の意識向上 コロナ禍で積極的に摂取すべき食材や具体的なレシピについて学ぶ	7月13日 ヘルスメイトと共催で実施。講座と実演を通して、バランスのよい食事について学んだ。	1	25
コグニサイズ・365歩のマーチ体操	地域の高齢者・閉じこもりがちの方のロコモ予防・認知症予防	9月22日、川内老人会(敬老会)に向け、ロコモ・認知症予防の体操を実施。住民同士の交流も図った。	1	27
365歩のマーチ体操 自主化に向けた支援	以前、ケアプラザで実施していた体操を、地域住民が自主的に継続していくための支援	8月2日、川和町保健活動推進員に向け、365歩のマーチ体操の指導・練習会を実施 10月11月にも同様の内容を実施。	3	21
コグニサイズ・コグニラダー	地域の高齢者・閉じこもりがちの方のロコモ予防・認知症予防 健康のつどいの再開に向けた支援	7月25日、民生委員より相談受け、コロナ禍で活動停止していた健康のつどいを再開するための体操をしてほしいと依頼あり実施。	1	22
ロコモ予防体操 (365歩のマーチ体操)	住民の健康づくり(ロコモ予防) 佐江戸町さわやかステップ体操の周知	4月29日 佐江戸町サロン:隣人会にて実施。 ハマトレを参考にしたストレッチと、音楽に合わせた365歩のマーチ体操	1	10
オーラルフレイル予防講話	住民の健康の意識向上	5月14日 川和町サロン「つづき亭」にて実施。 神奈川県のアールフレイルハンドブックを活用し、講話と口腔体操を実施。 その他も状況に応じて、各地区のサロン・老人会等で出前実施予定。	1	10



事業名	事業目的	事業内容・実施時期	実施回数	延べ参加人数
体力測定会 (元気づくりステーション さわやかステップ支援)	代表の高齢化、参加者の減少を受けて、新規参加者の獲得と担い手の発掘ができるよう、自治会・老人会・地域住民に働きかけるなどして、体力測定会を開催。	5月26日 元気づくりステーションの活動の一環として、佐江戸会館にて実施。身長・体組成・血管年齢・片足立ち・歩行速度などの項目を測定。11月24日にも同内容を実施予定。	2	60
元気づくりステーション交流会	元気づくりステーションの担い手同士の意見交換・モチベーションの維持・向上	6月2日 都筑区内の全ての元気づくりステーションが参加し、意見交換会実施。包括はファミリーを行う。	1	35
健康フェア	地域住民の健康意識の向上・増進 地域福祉団体との連携	7月3日、地域の福祉保健団体と連携し、健康測定会を開催。体組成計、血管年齢、骨量等の測定と、測定結果・介護予防の関する相談。	1	40
バランスよく食べる講話	地域住民の健康意識の向上・増進	7月13日、講話とちよい足しタンパク質おかずの具体的なレシピ紹介	1	24
体操ボランティア育成講座	地域人材の育成	7月6日、13日、27日に区役所で実施。講師による講座の後、ケアプラザ圏域ごとの参加者でグループワークを実施。	3	70
シニアの健康測定会	地域住民の健康意識の向上 地域ボランティア育成	11月22日 区役所事業の後方支援として、ボランティアと一緒に健康測定会を実施	1	40
ポールウォーキング体験会 &植物観察会	介護予防普及啓発事業として、高齢者のロコモ・認知症予防、社会参加を目的に実施	10月15日 都筑区ポールウォーキング振興会による体験会とハマトレト、植物インストラクターによる観察会を実施。	1	10
楽笑体操	介護予防普及啓発事業として、高齢者のロコモ・認知症予防、社会参加を目的に実施	11月5日 介護予防運動指導員、ヨガインストラクターによるロコモ予防体操を実施。	1	9
ACP～もしバナゲーム～ @ネットカフェかがはら	ACP(人生会議)の普及啓発。 もしバナゲームを通して、人生の最期について考えることと、もしも手帳などの活用できるツールがあることを知る目的	11月8日 地域のサロン内にて開催。都筑区在宅医療相談室を講師として招き、ACPについて、講話とゲームを通して学ぶ。	1	30
オーラルフレイル予防講話 &365歩のマーチ体操 @川和連合集会所	介護予防普及啓発事業として、口腔機能向上とロコモ予防を目的に実施	11月12日 ガーデンプラザ歯科の医師、都筑区役所の歯科衛生士を講師に招き、オーラルフレイルについての講話を実施。	1	16
健康フェスタ @川和小学校コミハ	地域住民の健康意識の向上 地域福祉団体との連携強化	11月30日 区役所、保健活動推進員、ヘルスマイト、あやめ薬局、地域訪問看護師などと連携し、健康測定会を開催。血管年齢や、握力、足趾力などの測定と介護相談を行った。	1	35
ACP&365歩のマーチ体操 出前講座	もしも手帳の普及啓発と、高齢者のロコモ予防を目的に実施。	12月3日 地域のサロンにて出前講座を実施。ACPの話と、ロコモ予防となる365歩のマーチ体操を実施。	1	10
老人会・サロン団体交流会	地域活動の活性化支援と、体操ボランティアの人材育成を目的に実施。	2月8日 3地区の老人会・サロンの代表者を集め、情報交換会を実施。体操のボランティアの方から体操を実施してもらい、老人会・サロンの活動に取り入れてもらえるよう提案した。	1	10
生活習慣病予防の講話	地域住民の健康意識の向上 健康寿命の延伸	2月24日 日本調剤の管理栄養士による食事の講話を実施。生活習慣病予防の食事や生活スタイルの提案を行った。	1	10

## ビオラ市ケ尾地域ケアプラザ

ビオラ市ケ尾地域ケアプラザは東急田園都市線の市が尾駅から近く、比較的ひとが集まりやすい「足」が整備された地域です。さらに、区役所や警察署などの公共機関や医療施設、金融機関、スーパーや飲食店など、ひとの生活に欠かせない社会資源も整備された地域です。現在は古くからお住まいの地元の方とここ20～30年ほど前に転入があった世代が民生委員や自治会役員等を担い、当ケアプラザとともに地域福祉活動が活発に行われています。また毎年新築マンションが増加し、若い世代の転入も進んでいます。ただ駅や庁舎を少し離れると閑静な住宅地がひろがり、川や並木の緑にも恵まれており「健康寿命男性日本一」の青葉区の象徴的な地域ともいえます。

ビオラ市ケ尾地域ケアプラザでは、地域の自治会や町内会、民児協、老人会、元気づくりステーション、ラジオ体操などに多職種の職員が参加し、地域のニーズや困りごとなどを把握の上、所内で共有し支援をするようにしています。担当エリアは、市ケ尾町、荏田西と2つの地域があるので、それぞれの地域の特徴を踏まえてビオラ市ケ尾地域ケアプラザや荏田西コミュニティハウスの場を利用し、地域に会った講座などを開催して、地域の方がいきいきと過ごせる様に支援をしています。

また、子育て支援では地域柄、職場の転勤などによる転入出が多く一人で悩みを抱えている方々が多いことから、自主事業を通してコミュニケーションを図ることを考え実施しています。障害の子どもを抱える方からの相談では、地域で横のつながりが、より必要と感じていることから、地域の事業所との横のつながりや個別支援級との関係作りを積極的に行い意見交換会等を開催しています。

地域ケアプラザとしては、場や機会、情報の提供を基本として、その時にタイムリーな物事を地域へ発信することで、地域にお住まいの人が、不安なくお過ごしできるように心がけています。

活動項目	活動内容
こもれ陽「市茶」	独り暮らしの方中心に地域での居場所として気軽に立寄ってもらいお茶を飲む茶話会形式のサロン。月2回開催。
交流広場どんぐり&お弁当広場	乳幼児の親子を中心に異世代の方も交流しおしゃべりできる広場。広場終了後はお弁当広場をして開放。
ビオラの畑	畑ボランティアを募集し、地域の方々がいっしょになって畑作業を実施
フリースペース囲碁将棋	閉じこもりがちが男性を対象に部屋を開放し自由に囲碁・将棋を楽しんでいただく。月2回開催。
お休み処 Viola	4階多目的室を利用したのコミュニティカフェ。ボランティアさんが中心になりカフェを運営。毎月第2金曜日。
エンジョイ！折り紙講座	皆で折り紙をしながら楽しむ集いの場として月2回開催。
すくすく親子体操	親子でスキンシップをとりながらの運動講座。赤ちゃんを負荷にし筋カトレーニングなど運動を行う。
みんなdeウォーキング	ケアプラザと市が尾保健活動委員が中心なり、誰でも簡単にできるウォーキングを開催。
唄ごえサロン	アコーディオンに合わせてみんなで唄ごえ喫茶風に懐かしい歌を唄う。
下市ケ尾ウォーキング	地元の方から地域の話を引き一緒に町内会のウォーキングマップコースを歩く。
園芸講座	草花に親しむ事業を開催。年2回夏と暮れに開催。
月いち土曜体操講座	土曜日の午後を利用したの運動講座。平日にケアプラザに来れない地域の方を対象に開催。
クリスマスコンサート	クリスマスコンサートを通して親子に楽しんでもらいケアプラザを知ってもらう。
わくわくおはなし会	お話の楽しさを読み聞かせを通じて親子でふれあう。
暮らしのヒント 備蓄品活用法	備蓄品の活用法やローリングストックなどヘルスマイトの主婦の目線で身近で役立つ講話をしてもらう。 地域ヘルスマイトと共催。
鎌倉街道見て歩き ～川和編～	大河ドラマ「鎌倉殿の13人」にあわせ、市ケ尾周辺を通る鎌倉街道沿いを説明をききながら歩く
手作りギターを作ろう	打楽器演奏をツールに小学生を対象にケアプラザで手作りのギターを作る。
さつまいも掘り体験！	親子でサツマイモ掘り体験を楽しんでもらい、ビオラの畑の周知と同時にケアプラザの周知も行う。
食育講座 おいしく野菜を食べましょう	保育園入園前までの親子を対象に野菜をおいしく食べるポイントなどの食育講座を開催する。
スマホ教室	スマホの活用方法を学び機能を知ることによりスマホを使うから楽しむことを目的とする。
小児救急講座	地域の方に乳幼児のものものに備えての救急講座を開催。
落語会	真夏の納涼・新春に落語を愉しんでもらい、ケアプラザを地域の方に身近な場所として認知してもらう。
じゃがいも掘り体験会@ビオラの畑	親子でジャガイモ掘り体験を楽しんでもらい、ビオラの畑の周知と同時にケアプラザの周知も行う。



さつまいも掘り



お休み処 Viola



クリスマスコンサート

## Ⅱ. 中川徳生会の事業を支える

### (1) 特徴的な人事制度

中川徳生会の理念「幸せの創造」は、利用者さまに対してだけでなく、法人で働いている職員にも当てはまります。「全職員に対して平等であり、無理なく安心してこの先も働き続けて欲しい」。その思いから、中川徳生会では職員の待遇や福利厚生などの諸制度の改善を積極的に進めております。ここでは、その中でも特徴的な制度をいくつかご紹介します。

#### L職（リミテッド職）制度

正職員（R職）、パート職員（P職）の他に、リミテッド職（L職）という正職員の一形態があります。家庭事情などで制限せざるを得ない勤務条件がある場合に、賞与の一部控除がある以外は正職員と同等の給与、休暇が支給される制度です。

◎令和5年3月31日現在 36名の職員がL職（リミテッド職）制度を利用されています。  
（例）育休明けの職員や自宅介護を行っている職員の勤務時間帯や出勤曜日の制限など。

#### カフェテリアプラン

中川徳生会独自の福利厚生制度です。年間最大750ポイント（最大90,000円）を各職員に付与。ポイントは資格取得や参考書購入などの自己啓発、レジャー施設や旅行などのリフレッシュ、幼稚園・保育園の費用や各種保険などの生活援助などメニューの中から各職員のライフスタイルに合ったプランを設計することができます。

#### 処遇改善手当（介護職）

国の施策と連動して、介護職（正職員）には「処遇改善手当（月毎）」「特定処遇改善手当（半期毎）」が支給されています。処遇改善手当は現在標準で月額41500円。

特定処遇改善手当は、経験・技能のある介護職に支給する国の方針から、当法人では「喀痰吸引等特定行為」や「活かすケア認定」等、法人が対象となる資格・認定を指定。その資格保有状況と半期の人事考課により個別に支給されます。特定処遇改善手当は一人当たり平均18万円。最高96万円。（2022年実績）

パートタイム介護職にも処遇改善手当を支給しています。個々の職員の労働条件や所持資格、人事考課により、時給に最大+360円の手当が支給されます。一時金（賞与）も支給されます。

## 処遇改善手当（介護職以外の職種）

国の施策と連動して、これまでは介護職にのみ処遇改善をしてきました。令和4年2月からさらなる処遇改善のための政策（処遇改善支援補助金）が導入されましたが、当法人の介護職の平均年収が全産業平均年収を上回ったことから他の職種へも処遇改善をすることとしました。それぞれの職種の処遇改善額は以下のとおりです。

看護職	月額30000円
生活相談員	月額30000円
介護支援専門員	月額15000円
栄養士	月額15000円
機能訓練指導員	月額15000円
事務員	月額1500円
施設長	月額7500円

## 各種人事データ

1年間の平均有給取得日数：11.5日（2022年実績）  
※医療、福祉サービス業の全国平均有給取得日数は9.9日  
（2022年 厚生労働省 就労条件総合調査より）

1年間の平均有給取得率：93.8%（2022年実績）  
※医療、福祉サービス業の全国平均有給取得率は60.3%  
（2022年 厚生労働省 就労条件総合調査より）

1ヶ月の平均残業時間：7.3時間（2022年実績）  
※医療、福祉サービス業の月平均残業時間は7.2時間  
（2022年度、厚生労働省 毎月勤労統計調査より）

育児休業からの復帰率：100%（女性5名、男性2名が復帰）

### 男女の賃金の差異

	男女の賃金の差異
正規雇用労働者	91.2%
非正規雇用労働者	108.4%
全体	79.7%

※男性の賃金に対する女性の賃金の割合

## (2) プロジェクト活動 (プロジェクト・分科会)

中川徳生会では、法人内でのより良い仕組みづくり・サービス提供のため、「プロジェクト」「分科会」活動が実施されました。

「プロジェクト」は時限的な活動で、「分科会」は同職種で事業所横断の活動として、各事業所からメンバーが集まり、事業所の垣根を越えたチームとして1年間の活動が行われました。

### 活かすケア分科会

#### ◆継続課題

##### ①介護職員の取り組み鈍化

人員不足とコロナ対応で介護実務が忙し過ぎ、勉強時間や実践時間が取れない。

##### ②指導者の不足

実際に指導してくれる人が少なく、取り組もうとしてもなかなか進まない。

##### ③問い合わせ増加

見学のご家族や、入職希望者からの問い合わせが増えているが、説明が難しい。

#### ◆活動の成果

##### ①公式ホームページ内「活かすケア」情報を拡大

活かすケアの解説文とともに、その効果が一目瞭然の Before After 動画を掲載。

各事業所で撮っていた動画を基に編集した。

今後も増やしていきたいが、特に Before の記録映像が少ないため、ご利用者さまが入所されたら当初の動画を撮影しておくように改善した。

また、各事業所の取り組み動画の発表会を分科会内で行う予定だったが、人員不足とコロナ対応の影響で、開催を新年度に先送りした。

##### ②職員専用ホームページに活かすケア情報を掲載

職員専用ページ内に、たっぷり活かすケアの情報を掲載した。

学習用のテキストや試験のポイント等の文書公開とともに、勝浪 PT による具体的な学習用の解説動画を様々なシーンごとに収録し、じゅうぶん自習可能な環境が整った。認定試験前の予習や、課題解決の参考にも活用できるものになっている。

##### ③かながわ高齢者福祉 研究大会への出場

中川の里 高橋沙生子職員が代表して大会に出場、発表を行った。結果は奨励賞。

今後、動画素材が増えれば、より分かりやすくインパクトも強いプレゼンテーションが行えるので、引き続き同大会へのエントリーを予定していく。分科会では毎月1回、各事業所の取り組み状況や課題など、情報の共有を行ってきた。今年度は

特に習熟の加速を目指したが、人員不足が顕著でコロナ禍もあり、思うように進まなかったのが実情である。「活かすケア」を習得応用していけば、ご利用者さまの自立度も改善され、効果の見える質の高いケアサービスの継続的提供につながっていく。これは他法人のサービスとの明確な差別化にもなる。今後も分科会メンバーを施設内インフルエンサーとして、「活かすケア」推進に積極的に取り組んでいきたい。

## 社会福祉士分科会

1. 目的:個々のレベルアップを目的とし、横浜市担当、川崎市担当と離れているからこそ横のつながりを持ち法人内での情報共有や相談し合える関係づくりの場とすることで、明日からの業務に活かす。

2. 構成メンバー:横浜市2包括、川崎市3包括の社会福祉士:計11名

3. 実施回数:ZOOM開催(全3回)

・事例検討(虐待事例、複合課題、消費者被害、8050問題、免許返納課題)

・情報交換会

①コロナ禍における活動内容、相談傾向について

②自主的な取り組み、困っていること等

③受講した研修についての情報共有

4. 内容

事例検討:

各々の視点から意見を述べ、考えを広げ、深める作業を行う場として参加者一人一人が気づいたことを持ち帰り明日からの業務に活かす目的で継続。

情報交換:

担当している市や区域によって地域環境や実施事業は異なるが、担当エリア外の情報を知り共有することで各々の支援方針の参考となっている。また、新規に入職した社会福祉士の方も本分科会参加により顔の見える関係を築けることで孤立をすることなく業務を推進している。受講したセミナーや自主事業で招聘した講師等は情報共有して今後の活動の参考とする。



## 保健師分科会

### 1. 分科会の特徴的な取り組み,目的

- ・新型コロナウイルス感染症への対応策の相談、検討を行い、医療職相談員としての相互研鑽及び職員や地域の健康管理に役立てる。
- ・コロナ禍での自主事業状況(内容、講師、チラシデータ等)を各事業所包括の共有するサーバで情報共有することによって、各包括での事業展開及び保健師活動に役立てる。
- ・医療ニーズの高い事例を相談、検討することによって医療職相談員としての相互研鑽に努める。
- ・研修内容を伝達し合うことによって専門性の向上に努める。

2.構成メンバー:横浜市2包括、川崎市3包括の保健師:計7名

3.開催回数:5回

### 4.令和4年度の総評

- ・各包括に1~2人ずつ配置されている保健師間で、法人内において横のつながりができた。同法人内での話し合いのため、気軽に相談しやすく息抜きができる場となった。新型コロナウイルス感染症予防によりICTを活用することで、集合するための時間を節約し約3か月毎に分科会を開催することができた。
- ・新型コロナウイルスとその対応について適宜情報共有や相談を行うことができたため、医療職相談員として各包括に情報を還元することができたことは非常に良かった。
- ・川崎市、横浜市双方の行政の情報を得ることで、新型コロナウイルス感染予防・介護予防の取り組みなどについて多様な情報を知り得ることができ、包括での業務や事業に役立っている。また、ケースや事業関係において、相談や情報交換、整理が出来る場として役立っており助かっている。
- ・新型コロナウイルス感染症 感染症予防マニュアル(訪問時・自主事業開催時) 令和3年11月第1版を作成、内容について大幅な変更点はない。5類感染症に移行したことにより今後の感染状況を踏まえ、職場での感染対策、事業開催時・訪問時などについての注意点を継続的に検討していく。
- ・包括共有ホルダーを活用し作成チラシ・参加した研修の情報共有をはかり業務時間の短縮と知識を増やす。

### 1. 分科会の特徴的な取り組み,目的

- ・新型コロナウイルス感染症への対応策の相談、検討を行い、医療職相談員としての相互研鑽及び職員や地域の健康管理に役立てる。
- ・コロナ禍での自主事業状況(内容、講師、チラシデータ等)を各事業所包括の共有するサーバで情報共有することによって、各包括での事業展開及び保健師活動に役立てる。
- ・医療ニーズの高い事例を相談、検討することによって医療職相談員としての相互研鑽に努める。
- ・研修内容を伝達し合うことによって専門性の向上に努める。

2.構成メンバー:横浜市2包括、川崎市3包括の保健師:計7名

3.開催回数:5回

### 4.令和4年度の総評

- ・各包括に1~2人ずつ配置されている保健師間で、法人内において横のつながりができた。同法人内での話し合いのため、気軽に相談しやすく息抜きができる場となった。新型コロナウイルス感染症予防によりICTを活用することで、集合するための時間を節約し約3か月毎に分科会を開催することができた。

## 保健師分科会（全ページからの続き）

- ・新型コロナウイルスとその対応について適宜情報共有や相談を行うことができたため、医療職相談員として各包括に情報を還元することができたことは非常に良かった。
- ・川崎市、横浜市双方の行政の情報を得ることで、新型コロナウイルス感染予防・介護予防の取り組みなどについて多様な情報を知り得ることができ、包括での業務や事業に役立っている。また、ケースや事業関係において、相談や情報交換、整理が出来る場として役立っており助かっている。
- ・新型コロナウイルス感染症 感染症予防マニュアル（訪問時・自主事業開催時）令和3年11月第1版を作成、内容について大幅な変更点はない。5類感染症に移行したことにより今後の感染状況を踏まえ、職場での感染対策、事業開催時・訪問時などについての注意点を継続的に検討していく。
- ・包括共有ホルダーを活用し作成チラシ・参加した研修の情報共有をはかり業務時間の短縮と知識を増やす。

## ケアマネ分科会

開催頻度は1か月おきに、主催は4事業所が交代で議題は主催者がアンケートをとりながら時世で必要とされている項目をとりあげました。コロナ禍の為、毎回ZOOMでの開催とはなったが、それぞれの意見が言える環境が整っていた。

第1回目は地域ケアシステムの構築の理解、それに伴う社会資源の情報共有、第2回目は認知症がある家族への対応について事例検討と緊急時フローチャートの推進・事例紹介について。事例を用いながらの学びだったので実践的な学びとなった。第3回目は被保険者第2号者を通して障害制度について検討した。現時点で対応に行き詰っている職員から他のケアマネに対してどのような対応をするか？と議題を提議してくれ、その職員から「今まで気が付かなかった側面にも気が付いた事が出来たし、自分の知らなかった障害制度についても知る事ができた」との感想があった。障害制度、その他の制度と介護保険が結びついたケースの対応は困惑してしまう事が多いが、法人内のケアマネの意見の集結により解決できることができると思う。なおその講義の後半は青葉区障害者後見的支援室ホップの職員が活動内容について詳しい説明があり、質疑応答がさかんに行われた。第4回目はケアプラン自己チェック、運営指導指摘事項の共有で実業務の正式書類の見直しができる。次年度は、介護保険改正もあり、今以上に監査や実地指導の機会が増えていくと思うのでこのような情報共有も必要だと思う。第5回目は、クレーム対応やモンスターペアレントに関する事例において、いかに対応するかと共に、メンタルヘルスについての議論にも至った。とかく、孤立化しやすいケアマネ業務だが法人内に 同職種の仲間がいて相談できる環境下にある事を心強く感じた。第6回目は令和5年度に法人ケアマネ分科会で取り上げるべきテーマについて話し合い、12月までにBCPの原案を作成する事になった。令和4年度は全てZOOMにて開催したが、今年度からコロナの扱いが2類から5類に変動する事により対面での開催もしていくこととなり、進行もよりスムーズに行える事ができると思う。

## 特養相談員分科会

### 【活動概要】

生活相談員分科会は介護老人福祉施設の生活相談員が事業所間の垣根を越えて、皆様にとって、より利用しやすい施設にするために話し合う場として立ち上げました。生活相談員は、皆様と施設をつなぐ中心的な役割を担っています。利用前からご本人さま・ご家族さまと係り、連絡・相談・調整などを務める施設の窓口となります。

この重要な役割を果たせるよう、分科会では介護保険をはじめとした制度の理解を深める勉強会や事例検討会、施設看護職との連携を深める意見交換会、短期入所生活介護(ショートステイ)ではご利用者さまの緊急時に希望通りの日程でご利用いただけるよう、事業所間の連携体制の強化等を議論してきました。生活相談員一同、より良いサービスが提供できるように努めて参ります。

## 特養医務分科会

ご利用者様に安全に健やかに生活していただくために医療的なサポートをメインとして、医務室・健康管理室はあります。法人内で、感染症発生時や看取りなどの情報共有を行っています。2022年度は感染症の影響もあり、会議は1回の開催でした。情報共有は、メールやSNSとつながっておこなっています。

### (3) 研修活動

#### 研修制度と研修参加

中川徳生会では、入職後もスキルアップを目的とした研修を多く用意しています。また、外部で開催される研修にも積極的に参加しています。

2022年度は新型コロナウイルス感染の拡大もありましたが、リモートでの研修の実施などもあり延べ1660名が研修に参加しました。

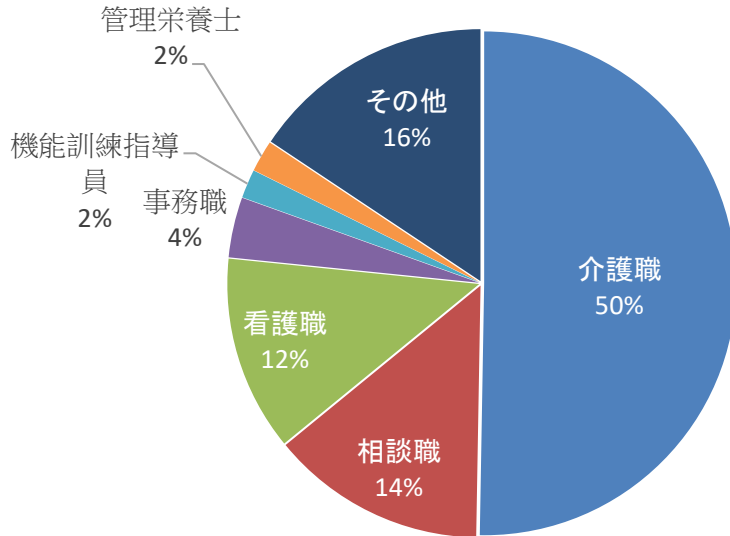
### Ⅲ. 事業所一覧と職員構成

#### (1) 事業所・サービス一覧 (2023年3月現在)

事業所名		扱いサービス				
特別養護老人ホーム	中川の里	本入所	短期入所	通所介護	居宅介護支援	
	都筑の里	本入所	短期入所	通所介護		
	ビオラ三保	本入所	短期入所			
	ビオラ川崎	本入所	短期入所	居宅介護支援	地域包括支援	
	ビオラ市ヶ尾	本入所	短期入所			
ケアプラザ・地域包括支援センター・その他	横浜市加賀原 地域ケアプラザ	通所介護	居宅介護支援	地域包括支援	地域活動交流	総合相談窓口
	ビオラ市ヶ尾 地域ケアプラザ	居宅介護支援	地域包括支援	地域活動交流	総合相談窓口	
	地域包括支援センター ビオラ宮崎	地域包括支援				
	地域包括支援センター こだなか	地域包括支援				
	シルバーハウジング 南平住宅	安否確認	生活相談			
	エヌアイ在宅サービス ステーション	訪問看護	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	訪問介護	夜間対応型訪問介護	
	法人本部					

## (2) 職員構成

### 職種別人数構成



【職員総数：543名】

\*正職員：350名

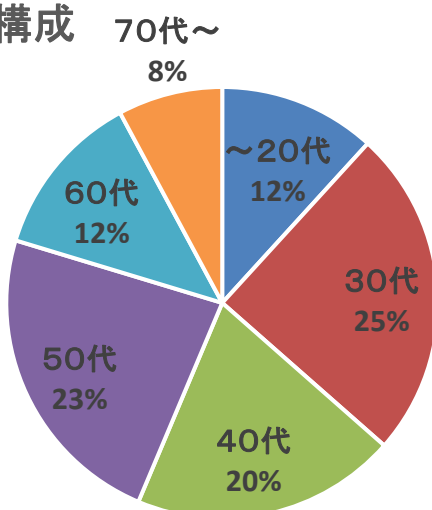
\*非常勤職員：193名

※2023年3月31日現在  
表段下は昨年度との差

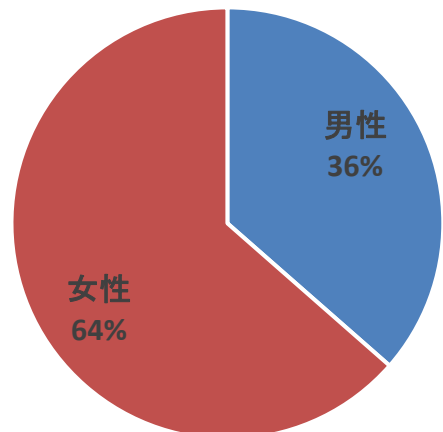
(名)

総数	介護職	相談職	看護職	事務職	機能訓練	栄養士	その他
543	276	75	68	21	10	11	82
▲2	▲16	+1	▲2	±0	▲1	+2	+14

### 年齢構成



### 男女構成



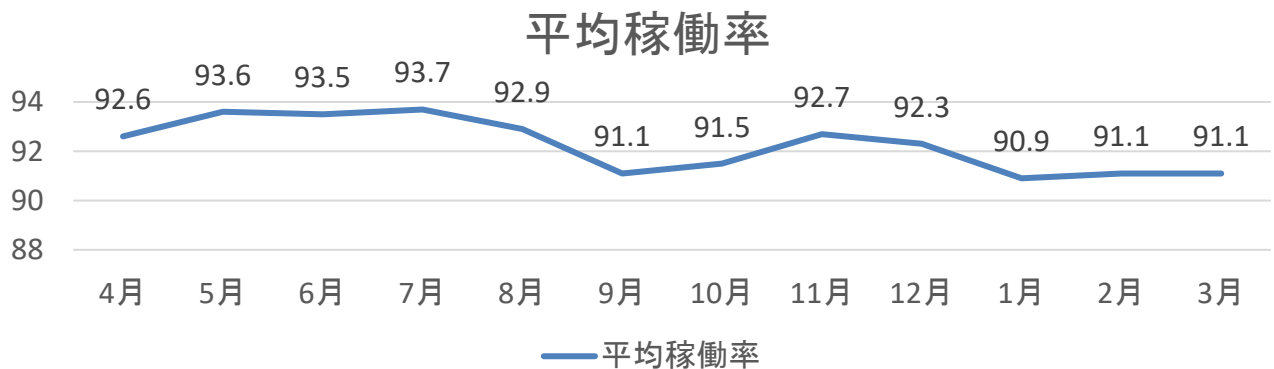
## 主な資格別 保有者数

資格	人数
介護職員初任者研修(旧ホームヘルパー2級)	149
介護職員実務者研修(旧ホームヘルパー1級)	4
介護福祉士	224
介護支援専門員	70
主任介護支援専門員	15
看護師	67
准看護師	27
保健師	6
理学療法士・作業療法士・言語聴覚士	9
管理栄養士	12
栄養士	12
社会福祉士	39
精神保健福祉士	2
介護プロフェッショナルキャリア段位制度 評価者(アセッサー)	10
認定特定行為業務従事者(喀痰吸引等)	17
認知症介護実践研修(実践者)	17
認知症対応型サービス事業管理者研修修了	6
活かすケア検定	135
介護福祉士実習指導者	8
福祉用具専門相談員	9

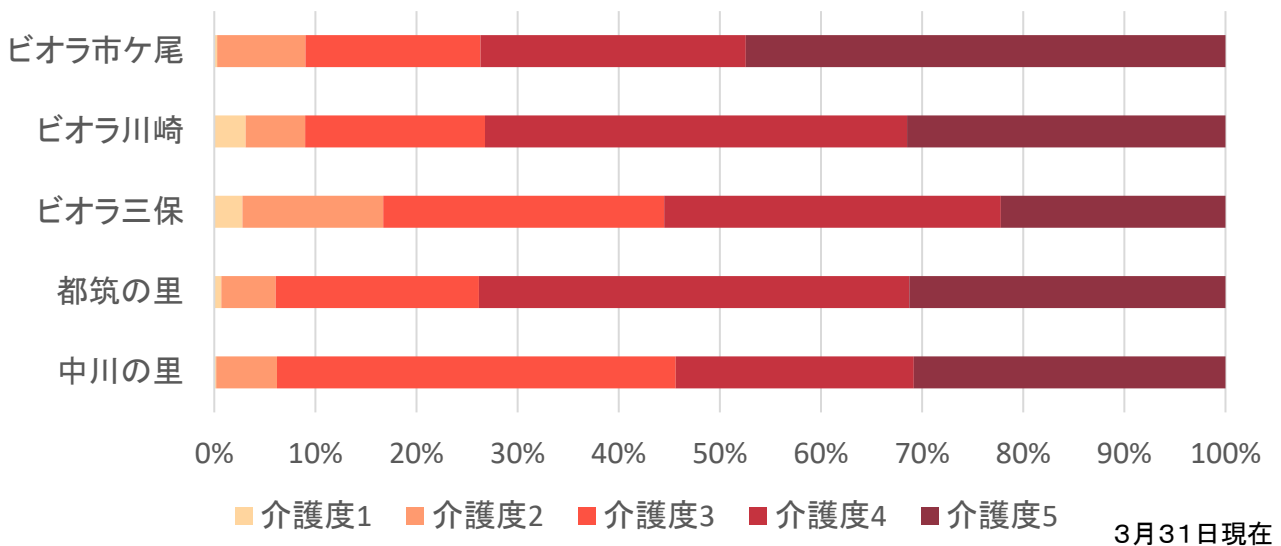
## IV. 事業報告

### (1) 特別養護老人ホーム（本入所事業）

特別養護老人ホーム 中川の里	92床
特別養護老人ホーム 都筑の里	64床
特別養護老人ホーム ビオラ三保	140床
特別養護老人ホーム ビオラ川崎	120床
特別養護老人ホーム ビオラ市ケ尾	58床
合計	474床



### 入居者の要介護度



- ・ 特養5事業所合計の年間平均稼働率は92.3%（対前年-1.1p）
- ・ 特別養護老人ホームは介護度が高い方でも安心してご利用できる施設のため、全体の90.7%が要介護3以上の利用者さまとなっています。
- ・ 特養5事業所合計の利用者さま平均介護度は3.83（対前年+0.02）



## 特別養護老人ホーム 中川の里

### 【施設の特徴】

平成6年、都筑区が誕生した年の11月に開業した4人部屋中心の従来型特養です。閑静な住宅地の中にあり、敷地内には春の桜やハナミズキをはじめ、四季折々、いつもどこかで花が咲いています。最寄り駅(北山田駅)から徒歩10分以内で駐車場もあり、ご面会にも便利な環境です。

提供サービスには法人独自の介護手法「活かすケア」を取り入れ、ご自身で出来ることはいつまでもできるように、出来ない事も少しずつできるように自立支援を後押ししています。まだまだ発展途上、スタッフ一同取り組んでまいります。

地域の方々にご協力を頂き、地元の小学校や保育園との交流や、ボランティアの皆さまによるダンスや踊り、演奏会など、ご利用者さまの生活を彩る施策も行っています。

長引くコロナ禍で全館一斉のレクリエーションや季節イベントは自粛しておりますが、それでも少人数でできるレクリエーションを工夫して行うなど、生活が少しでも豊かになるように努力してまいります。

### 【2022年度稼働率推移】

単位：%

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	通期
94.3	94.0	95.0	93.8	92.2	89.9	89.7	91.3	92.4	91.4	91.3	93.1	92.4

## 特別養護老人ホーム 都筑の里

### 【施設の特徴】

介護保険スタートとほぼ同時に開設した都筑の里は、4人部屋14部屋・2人部屋4部屋の計64床の従来型特養です。このうち、22床を認知症専門フロアとし、お一人お一人の状況に合わせてお受け入れしております。

3つに分かれたフロアには日当たりの良い広い食堂をご用意。日中はこちらでお過ごしいただく方が多くいらっしゃいます。

居室担当者制度により細かいことに気付けるよう配慮できるよう心がけております。法人独自の「活かすケア」を取り入れ、ご入居者様のお力を最大限に活かしながら介助させていただきます。

イベントはコロナ過のため派手な事は出来ませんが、敷地内のたくさんの緑で四季を感じながら、こじんまりとお楽しみいただけることを企画し実施いたしました。

皆さまが心豊かにお過ごしいただけるよう努めてまいります。

### 【2022年度稼働率推移】

単位：%

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	通期
94.2	96.0	89.3	94.7	96.9	94.7	95.9	97.9	93.8	94.0	97.8	97.5	95.2

## 特別養護老人ホーム ビオラ三保

### 【施設の特徴】

日曜日の送迎対応、施設見学の随時対応のほか、新規の緊急利用希望者の即日入所や長期利用にも対応しています。疾患や食事等に制限のない利用者様は、ルールを設け飲酒や喫煙が可能となっています。

常勤の理学療法士等を配置し、ショートステイ利用時や在宅での生活動作についての助言も行っています。

看護職員の24時間配置により、経管栄養、喀痰吸引、ストマ、血糖コントロール、末期がん、終末期等の医療対応が必要な利用者様を積極的に受け入れ、そのような方であっても継続的な健康管理により安心して利用していただける体制を整えています。

新型コロナウイルス感染対策により、レクリエーションやコミュニケーションロボットによる脳トレなどユニット単位の少人数でできるものを実施しています。

### 【2022年度稼働率推移】

単位：%

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	通期
93.1	96.3	95.8	91.5	88.5	86.6	87.7	87.3	86.0	85.3	82.3	82.4	88.6

## 特別養護老人ホーム ビオラ川崎

### 【施設の特徴】

ビオラ川崎は全室個室、130床のユニット型特養です。地域に密着し地域ボランティアとの交流が盛んな施設です。令和4年度は外部ボランティア、外出活動等は新型コロナウイルス感染予防により思うように活動できませんでしたが、近隣の小学生とのオンライン交流を行うなど新たな取り組みを進めています。

ケアについては自立支援につながる介助法「活かすケア」の教育に力を入れています。外部の理学療法士の指導のもと、個々に合った身体機能の維持向上のためにプランを作成、実施しています。

医療的ケアについては、看護師が24時間常駐し、医療的ニーズに対応ができる体制を整えています。協力医療機関の川崎幸クリニックや精神内科などの回診を受け、医療的なバックアップ体制も整っています。また、ご本人、ご家族様に寄り添ったお看取りができるように、定期的に研修を実施しています。

令和4年度は新型コロナウイルスの感染対策を講じながら、オンライン面会と併せて直接面会も再開しました。少しでも施設での生活のご様子が伝えられるよう写真をご家族にお渡ししています。

その他活動については、近隣の小学校とオンラインで交流会を3回実施しました。小学生との交流会は有意義なものとなりました。その他にも手作り神社を作成しての初詣、各ユニットごとの季節の行事(花見、母の日、父の日、誕生日会、敬老のお祝い、ひな祭り、食レク等)を実施しています。これらの活動は当法人ホームページのブログに随時アップしています。

### 【2022年度稼働率推移】

単位：%

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	通期
91.5	90.0	92.1	95.7	96.7	95.2	95.2	98.2	98.7	95.2	97.1	94.7	95.0

## 特別養護老人ホーム ビオラ市ヶ尾

### 【施設の特徴】

ビオラ市ヶ尾は全室個室で、トイレ・洗面台が完備のユニット型特養です。定員58床のアットホームな施設です。

入居前の生活に近づけるような生活を提供できるように24時間シートを作成しています。

医療面では、看護師が24時間在駐しご入居者様の健康面をサポートしています。

胃瘻・吸引・インスリン・在宅酸素など様々な処置に対応しています。

また、食事はおかゆやご飯をユニットで炊き、お味噌汁を作ったり可能な範囲で、温かいものは温かく、冷たいものは冷たく食事できるように日々工夫しています。また食事の形態は、歯科医師の協力の元、嚥下検査を行い食事の形態を必要に応じ調整しています。

その人らしさを追求し余生を穏やかに過ごしていただきたいと願っています。

### 【2022年度稼働率推移】

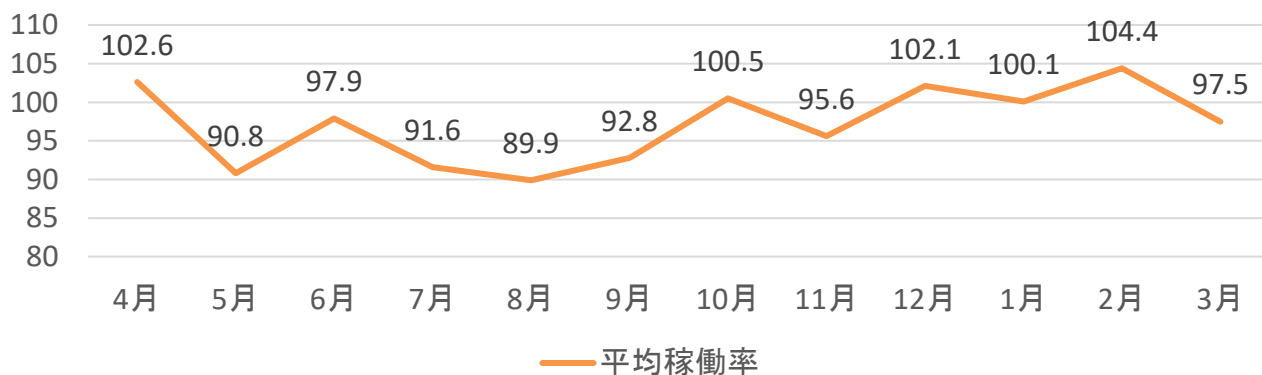
単位：%

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	通期
88.8	91.3	93.3	93.9	92.3	91.1	91.3	90.7	92.8	91.7	92.2	94.0	92.0

## (2) 特別養護老人ホーム（短期入所事業）

特別養護老人ホーム 中川の里	8床
特別養護老人ホーム 都筑の里	16床
特別養護老人ホーム ビオラ三保	10床
特別養護老人ホーム ビオラ川崎	40床
特別養護老人ホーム ビオラ市ヶ尾	2床
合計	76床

### 平均稼働率



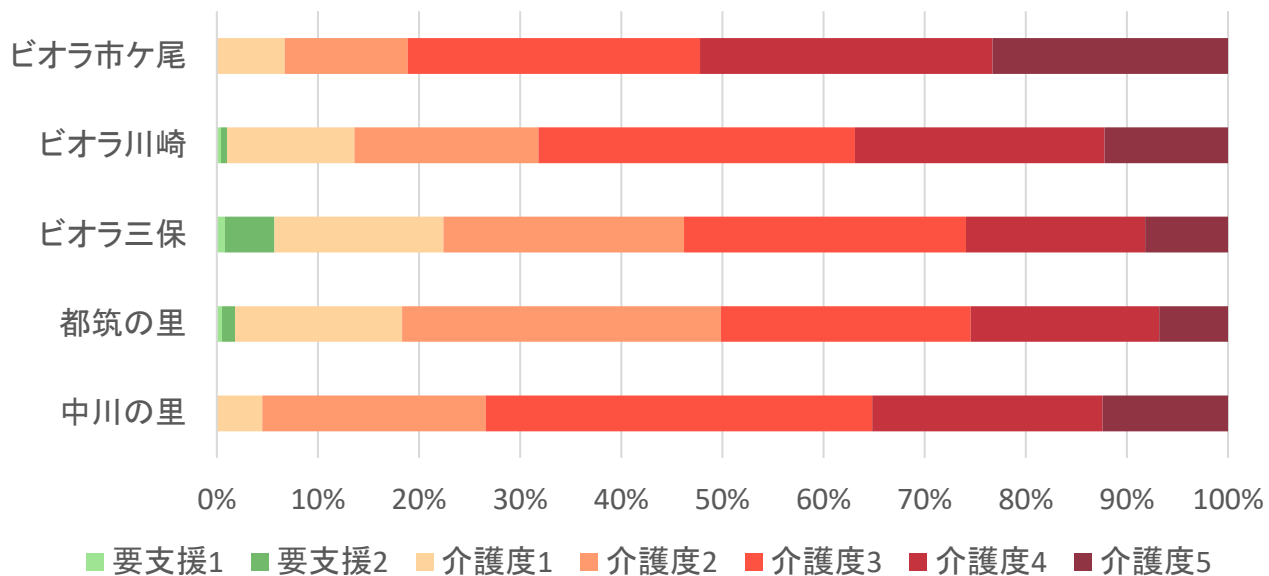
- ・ 特養5事業所合計の年間平均稼働率は97.0%（対前年+6.4p）
- ・ 短期入所は要支援1の方からご利用いただけるため、様々な要介護度の方がご利用されています。

# 短期入所事業の介護度別年間利用者数

(人)

	中川の里	都筑の里	ビオラ三保	ビオラ川崎	ビオラ市ヶ尾
要支援1	0	0	3	6	0
要支援2	0	5	19	9	0
要介護1	12	63	65	177	6
要介護2	59	120	93	256	11
要介護3	102	94	109	441	26
要介護4	61	71	69	347	26
要介護5	33	26	32	171	21

## 利用者の要介護度

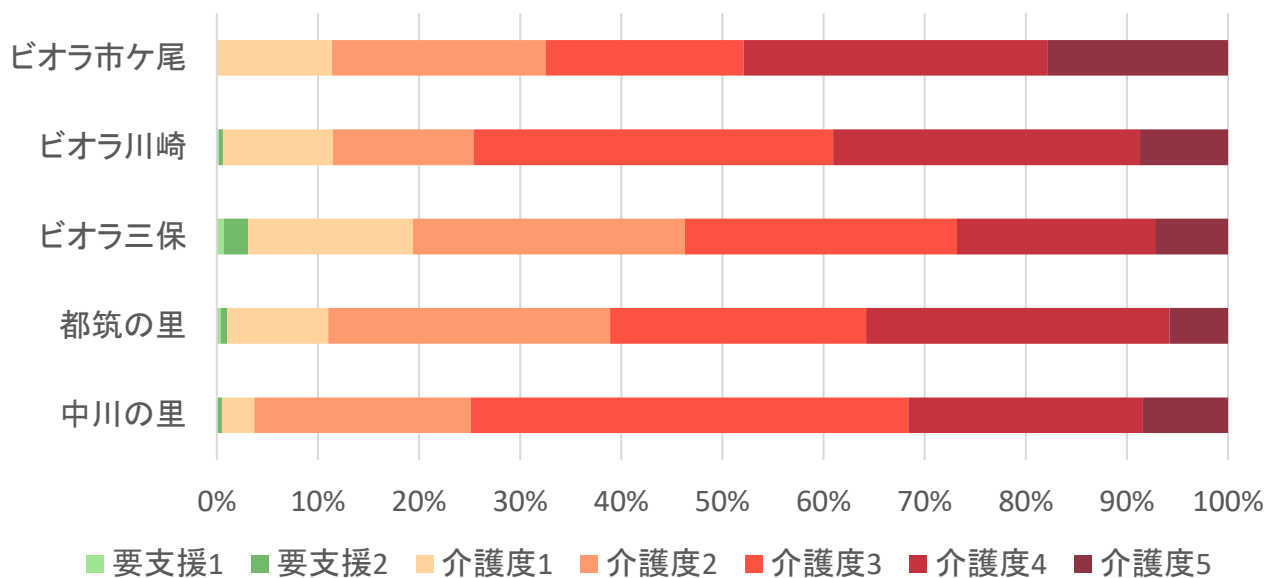


# 短期入所事業の介護度別年間延べ利用日数

(日)

	中川の里	都筑の里	ビオラ三保	ビオラ川崎	ビオラ市ヶ尾
要支援1	0	16	25	22	0
要支援2	15	26	94	47	0
要介護1	105	444	626	1261	101
要介護2	711	1236	1033	1613	188
要介護3	1437	1119	1032	4125	174
要介護4	770	1326	754	3520	268
要介護5	278	258	276	1006	158

## 要介護度の割合





## 特別養護老人ホーム 中川の里

### 【施設の特徴】

ベッド数は8床と少ないですが、緊急利用もできる限りの受け入れを心がけています。ご家族や担当ケアマネジャーさんとのコミュニケーションを大切に、安心してご利用頂けるように努めてまいります。

### 【2022年度稼働率推移】

単位：%

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	通期
100.4	106.5	130.8	120.6	89.5	104.6	155.6	143.8	150.0	141.5	148.7	128.2	126.6

## 特別養護老人ホーム 都筑の里

### 【施設の特徴】

認知症フロア8床を含めた16床をご用意しております。2人部屋1部屋の他はすべて個室となります。緊急でのショートステイご利用希望の方でも積極的にお受けいたします。ご利用時のご様子も可能な限り随時お伝えすることで安心していただけるよう努力しております。また空きベッドのご案内もこまめに行い、常に情報共有しながらご利用いただいております。

### 【2022年度稼働率推移】

単位：%

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	通期
102.5	69.6	79.0	90.9	88.3	91.0	103.8	96.3	94.0	97.2	96.7	98.8	92.3

## 特別養護老人ホーム ビオラ三保

### 【施設の特徴】

日曜日の送迎対応、施設見学の随時対応のほか、新規の緊急利用希望者の即日入所や長期利用にも対応しています。疾患や食事等に制限のない利用者様は、ルールを設け飲酒や喫煙が可能となっています。

常勤の理学療法士等を配置し、ショートステイ利用時や在宅での生活動作についての助言も行っています。

看護職員の24時間配置により、経管栄養、喀痰吸引、ストマ、血糖コントロール、末期がん、終末期等の医療対応が必要な利用者様を積極的に受け入れ、そのような方であっても継続的な健康管理により安心して利用していただける体制を整えています。

新型コロナウイルス感染対策により、レクリエーションやコミュニケーションロボットによる脳トレなどユニット単位の少人数でできるものを実施しています。

### 【2022年度稼働率推移】

単位：%

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	通期
124.7	99.7	112.7	106.5	124.5	102.7	99.7	108.7	125.5	130.0	153.6	158.4	120.4

## 特別養護老人ホーム ビオラ川崎

### 【施設の特徴】

ビオラ川崎は全室個室、30床のユニット型施設です。

祝日等の受け入れ対応も行っており、ご家族様やご利用者様などの急なご希望にも臨機応変に対応しております。

また、当施設は看護職員を24時間体制で配置している為、医療依存度が高いご利用者さまの受け入れも積極的に行い、ショートステイご利用中も安心してお過ごしいただける体制を整えております。

新型コロナウイルスが感染拡大している中でもご安心してお過ごしいただけるよう、ご入所時には必ず看護師がご利用者様の健康チェックを行っています。現場スタッフに関しても感染予防対策に留意しながらケアを行うよう心掛けております。また、飛沫防止対策のパーテーションの設置、ソーシャルディスタンスの対応等も昨年度に引き続き継続して行い、ご利用者さまが安心してショートステイをご利用してもらえるような環境づくりを行っております。

コロナ禍でのご利用中でもメリハリのある生活を送っていただけるよう、感染予防対策を行いながら毎日体操やレクリエーションを行っております。季節行事の際にも感染予防対策を行いながら、ユニット毎に特別なイベントを行い、少しでも四季を感じてもらえるような取り組みを行っております。

### 【2022年度稼働率推移】

単位：%

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	通期
91.8	89.8	91.8	83.7	81.9	89.8	88.5	84.3	87.2	82.3	83.5	76.5	85.9

## 特別養護老人ホーム ビオラ市ケ尾

### 【施設の特徴】

ビオラ市ケ尾は、全室個室のユニット型の施設です。全60床のうち2床がショートステイになります。市ケ尾駅から徒歩5分圏内にあります。介護職の8割以上が介護福祉士の資格を有しています。また看護師が24時間体制で健康面をサポートしております。ショートステイで看取り介護を希望される場合もご相談可能です。医療依存度の高いご利用者様に多くご利用いただいております。

### 【2022年度稼働率推移】

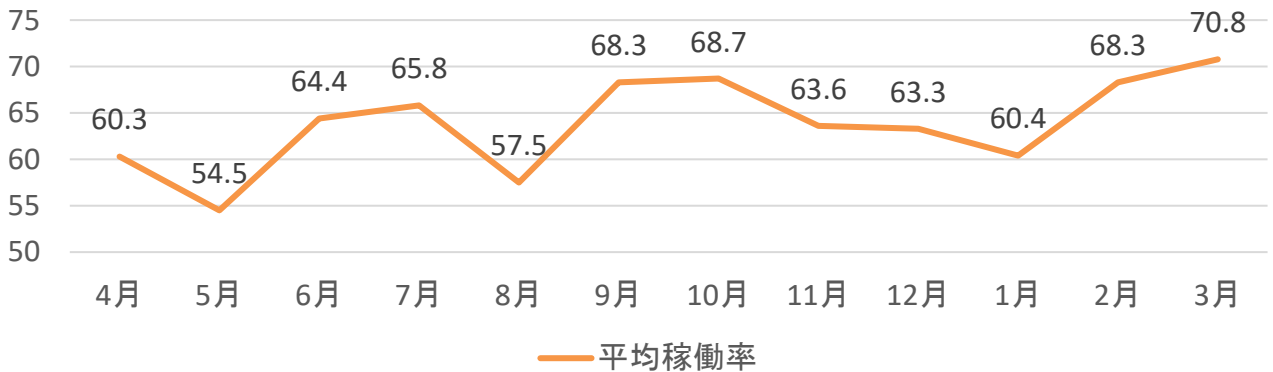
単位：%

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	通期
218.3	172.6	165.0	64.5	88.7	70.0	95.2	60.0	158.1	164.5	160.7	80.6	124.5

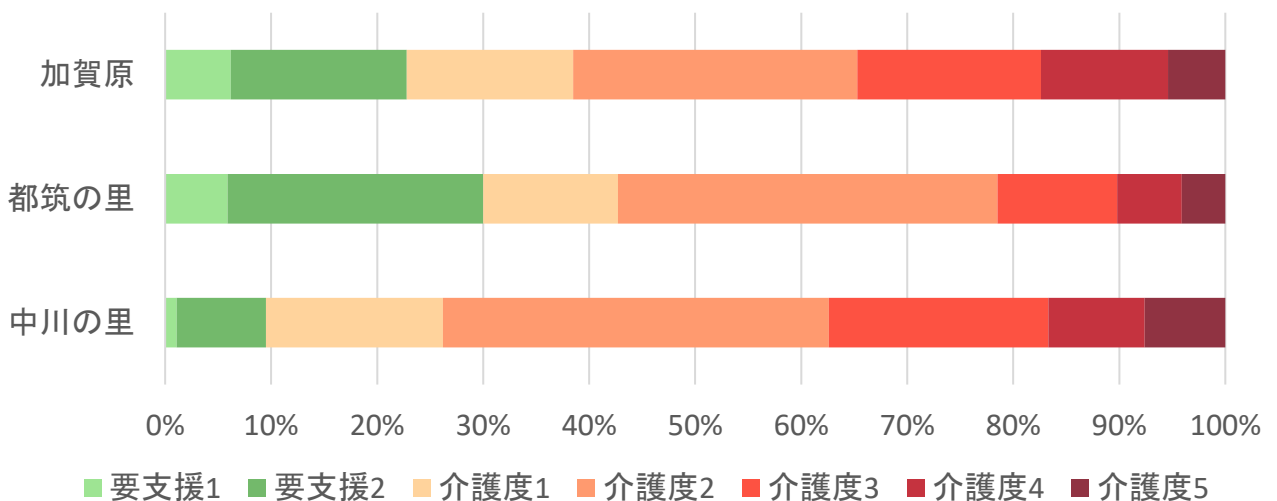
### (3) デイサービス事業

特別養護老人ホーム 中川の里	30名
特別養護老人ホーム 都筑の里	40名
横浜市加賀原地域ケアプラザ	45名
合計	115名

#### 平均稼働率



#### 要介護度の割合



- ・ 3事業所合計の年間平均稼働率は63.8%（対前年－7.5p）
- ・ デイサービスは要支援1の方からご利用いただけるため、様々な要介護度の方がご利用されています。予防支援サービスとしても好評で、要支援の方も多くご利用されています。

## 特別養護老人ホーム 中川の里

### 【施設の特徴】

中川の里のデイサービスの特色には「フレックスデイサービス」「多様な趣味活動」「同施設でショートステイ利用が可能」の3つがあります。

#### 「フレックスデイサービス」

ご利用者、ご家族のニーズに合わせて最長10時間まで、ご利用時間を選択することができます。もちろん短時間(最短3時間から)の利用も可能で、入浴のみのご利用や、午後の活動のみの参加など、幅広いニーズに対応しております。

利用開始、終了の時間選択も豊富で、朝早くお迎えに来て欲しい方は7:45からのお迎えに対応、また遅く帰りたい方は19:00までのご利用が可能となっており、幅広いプラン提案で各ご利用者の生活リズムに合わせられるようにしております。更に、18:00以降までご利用される方には夕食の提供を行っており、ご家族のお帰りが遅い方でも安心してご利用頂けると大好評です。

#### 「多様な趣味活動」

中川の里では趣味活動として「書道」「麻雀」「カラオケ」「おとなの学校」「工作」「活け花」「機能訓練」などを主に提供しています。

さらに「おとなの学校」活動では教科書を使った本格的な授業に参加することが出来るため、とても好評です。回想法をベースにした授業内容ですので誰でも気軽に参加することができ、毎回大きな笑い拍手が起きているような、そんな活動です。

また機能訓練では施設内ウォーキング(池を中心に作られた施設なので、周回することが出来ます。1周60メートルあります)やイージウォーク(下半身を動かす機械)、平行棒などに加え、理学療法士の指示による日常生活動作訓練なども行っております。

様々な活動の中からそれぞれのご利用者に合わせて活動を選択していただくことで、デイサービスへの参加意欲を引き出し、快活に毎日を過ごしていただくサポートを行っております。

#### 「同施設でショートステイ利用が可能」

中川の里の2階、3階は特養でショートステイの提供を行っており、1階のデイサービスのご利用者さまが必要に応じてショートステイもご利用になれます。

特に認知症の疾患を持つ方にとって環境の変化はご本人に大きな負担となりますが、見慣れた施設であれば他の施設に行かれるよりも安心して利用できるとの声を頂いています。

## 【2022年度1日あたり利用者数推移】

単位：人

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	通期
23.8	23.0	22.8	21.9	17.7	22.8	21.3	21.6	20.7	20.0	22.2	23.4	21.8

## 特別養護老人ホーム 都筑の里

### 【施設の特徴】

都筑の里のデイサービスは「リハビリ」に力を入れています。

専属の理学療法士を3名配置し、お一人お一人に合わせたプログラムを提供させていただきます。リハビリマシンが3台、足のむくみを取る機械やコリをほぐす低周波治療器、平行棒などを設置しています。また、長年高齢者の運動プログラムの作成等に携わってきたスタッフによるリズム体操や集団体操など、体を動かすプログラムが豊富です。

ご利用時間は3時間～8時間までご要望に合わせて利用可能です。短時間の場合、午後のみのご利用も可能です。やむを得なくお休みをする場合の振替利用も行っています。

送迎エリアは広く、都筑区全域および青葉区市ヶ尾方面となります。

豊富なりハビリメニューを提供する反面、「いろいろな方と交流したい」「ゆっくり広いお風呂につかりたい」といった目的でご利用される方も多く在籍しております。フロアの大きな窓ガラスの外にはテラスが広がり、その正面に位置するガーデンスペースには季節に合わせて野菜や花を植え替え、日向ぼっこをしながら四季を楽しんでいただけます。

正面の入り口には、ご希望のご利用者さまと作成した大きな作品を月替わりで展示しております。

ショートステイを併設している施設のため、2つのサービスを合わせてご利用いただくことも可能です。

### 【2022年度1日あたり利用者数推移】

単位：人

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	通期
19.0	3.9	15.5	15.7	14.9	17.8	17.4	17.0	12.6	10.5	16.9	18.8	15.0



## 横浜市加賀原地域ケアプラザ

### 【施設の特徴】

加賀原地域ケアプラザのデイサービスは「マルチデイサービス」を提案しています。

ご利用者のニーズに合わせて、利用時間・趣味活動・機能訓練・入浴・食事が選択できます。

まず「利用時間」ですが、3時間以上から利用が可能な「フレックス制度」を導入。朝苦手な方はお昼ごろから、入浴や食事だけを希望する方、午後の機能訓練や趣味活動レクのみを希望しているご利用者もいらっしゃいます。ご自身の生活スタイルに合わせたサービスの利用が可能となっています。

次に「趣味活動」では、手芸や工作はもちろん書道や麻雀など選択ができます。書道では年2回 展覧会へ出展し、出展者全員に賞状が送られてくるため、皆様のやる気につながっています。麻雀では男性のみではなく女性の参加者も増えており、「健康麻雀」として楽しまれています。

「機能訓練」では平行棒やバイク、踏み台昇降を活用し、特に下肢筋力の維持向上を目指したメニューを行っています。火曜日と金曜日は個別機能訓練を充実させており、機能訓練指導員と近隣の公園などへ歩行訓練を行っています。施設周辺は緑豊かな住宅地ですので、四季を感じた機能訓練は大変好評です。

「入浴」では、基本は午前中に入浴となりますが、ご希望であれば「午後入浴」も可能です。※人数制限あり。銭湯のような大浴場に、車いすのご利用者も安心して入浴ができるリフトもごございます。年間のイベントとしては入浴剤を使用した「温泉週間」や「しょうぶ湯、ゆず湯」といった季節に合わせた入浴を楽しんでいただけます。

「食事」ではご利用者の食事形態に合わせたメニュー、食形態の提供が可能です。ミキサー食からソフト食など、どのような食形態でもしっかりとした味付けに、彩りも考えられたメニューとなっています。

このように、ご利用者のニーズや生活スタイルに合わせ、カスタマイズできる「マルチデイサービス」を加賀原地域ケアプラザは提案しています。

### 【2022年度1日あたり利用者数推移】

単位：人

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	通期
15.6	27.3	27.3	28.6	27.9	29.5	31.3	26.3	27.2	26.3	31.4	31.1	27.5

## (4) 居宅介護支援事業

### 特別養護老人ホーム 中川の里

#### 【特徴・取り組み】

地域に根差し、在宅ベースで安心して介護サービスが受けられるように、3人のケアマネジャーがコミュニケーションを大切に取り組んでいます。地域の包括支援センターとも連携しつつ、常に最新の介護保険情報、周辺事業所情報を把握し、より良いケアプランの提案に務めています。

#### 【2022年度利用者数推移】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
支1	10	13	12	12	13	15	16	17	18	17	17	16	14.7
支2	26	20	19	20	19	19	18	17	16	18	17	17	18.8
介1	22	20	21	21	22	20	21	23	23	21	19	21	21.2
介2	29	33	34	36	37	35	35	32	29	28	30	31	32.4
介3	12	13	13	12	11	12	16	13	12	13	14	16	13.1
介4	8	8	8	7	5	6	5	4	5	6	6	6	6.2
介5	4	4	4	4	4	5	4	6	6	6	7	7	5.1
計	111	111	111	112	111	112	115	112	109	109	110	114	11.4

## 横浜市加賀原地域ケアプラザ

### 【特徴・取り組み】

地域ケアプラザに併設している居宅介護事業所として、地域包括支援センターや地域交流・生活支援コーディネーターと地域情報を共有し、ご利用者が住み慣れた地域で、自分らしく生き生きと生活が送れるように、介護サービスのみではなく、地域のインフォーマルサービスを活用するなど、地域で生活するご利用者のニーズに合わせ、地域包括ケアの視点でケアプランの作成に心がけています。ご利用者や家族とのコミュニケーションを大切に、本音で話せる、安心して頼れるケアマネジャーを目指し、ケアマネジャーの資質・能力向上を目標に、外部研修にも積極的に参加しています。

ケアマネジャーの仕事に正解はありません。私たちはご利用者、家族としっかりと向き合い、声を聞き、一緒になりプランを導き出せる。そんな寄り添うことができる居宅介護支援事業所を作り上げていきます。

### 【2022年度利用者数推移】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
支1	11	11	13	12	14	12	12	17	14	14	13	12	12.9
支2	31	32	31	29	26	28	28	26	28	28	28	26	28.4
介1	25	24	25	31	31	28	28	30	31	32	31	28	28.7
介2	26	27	24	26	26	26	26	28	27	26	26	24	26.0
介3	13	10	12	11	11	12	12	14	13	12	18	18	13.0
介4	11	10	9	9	10	11	11	11	12	12	11	9	10.5
介5	4	3	2	2	3	3	3	4	4	4	4	5	3.4
計	121	117	116	120	121	120	120	130	129	128	131	122	122.9

## 特別養護老人ホーム ビオラ川崎

### 【特徴・取り組み】

ご利用者とそのご家族の体調や状況に気を配り、変化がある場合には迅速に適切な連絡や手配が出来るように心がけています。また、住み慣れた地域で医療・福祉・行政と連携し、その人がその人らしく快適に暮らしていけるような環境を整備し提供できる様に努めています。

当事業所では研修に参加し、それぞれの得た知識や情報を共有し自己啓発を行っています。

ひとり暮らしのご利用者が安心して暮らしていけるよう、緊急連絡方法をフローチャートで可視化するなど相談し、提示しています。私たちは開所以来、困難事例への積極的な受け入れをしています。ご利用者とそのご家族が双方笑顔で在宅生活をおくれます様に今後も鋭意努力していく所存です。

### 【2022年度利用者数推移】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
支1	8	15	13	23	17	18	16	17	17	16	14	12	15.5
支2	12	27	27	18	23	23	24	22	21	19	21	22	21.6
介1	46	44	46	47	47	49	45	43	42	38	37	42	43.8
介2	24	22	20	21	24	18	19	18	17	19	16	19	19.8
介3	14	10	15	37	16	15	14	17	16	15	16	15	16.7
介4	6	7	7	7	6	7	6	6	6	6	4	6	6.2
介5	3	3	2	3	1	3	3	4	3	3	3	3	2.8
計	113	128	130	156	134	133	127	127	122	116	111	119	126.3

## ビオラ市ケ尾地域ケアプラザ

ビオラ市ケ尾地域ケアプラザの居宅介護支援事業所の取組について下記に示します。

### 【重点項目・取り組み】

居宅サービス計画の作成にあたっては、ご利用者の意思を尊重し、心身の状況、その他の置かれている環境等に応じて、利用者が自立した日常生活を営む事が出来ることを目標としました。

コロナの状況に応じての業務となりましたが、一カ所に人が集う担当者会議以外は時短をしながら通常通りのケアマネ業務をする事が出来ました。担当者会議は、必要なケースでは事前に検討項目・課題・解決策を伝えて各事業所職員がそれぞれの答えを持った上参加するという有意義な状態で開催出来ました。介護保険制度だけでは対応が困難で諸制度(生活保護・障害・医療など)の理解を深める必要もありました。【(服薬知識について)(高次脳機能障害について)(対人援助技術)(入退院のスムーズな対応について)(精神疾患のある人への対応)】を研修受講し受講した職員が他職員へ情報共有していく事により諸制度の理解を深める事が出来ました。地域情報を理解してプランの中に取り入れて資源の有効活用をする事も目標として、同事業内の生活コーディネーターから定期的に資源の説明会を開催する事を依頼し少しずつ理解が深まって来ました。今後も継続し開催機会を持ち、更に理解を深めていきます。さらなる理解することで、その方が置かれている環境に応じた生活をおくる事ができる事へとつながっていくと思います。特定会議、他事業所との合同事例検討会を通してケースの困りごとを独りで抱え込まずにメンタルヘルス維持が出来るようにしました、それぞれのケースを大切にご対応させていただきます。

### 【2022年度利用者数推移】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
支1	12	12	11	16	13	13	10	10	10	11	6	8	11.0
支2	20	18	22	17	21	21	23	22	21	20	23	23	20.9
介1	32	32	31	29	28	28	28	29	30	31	34	33	30.4
介2	25	27	27	30	30	31	34	34	34	31	31	32	30.5
介3	11	10	9	11	10	10	11	14	14	12	11	11	11.2
介4	7	7	6	4	7	7	7	7	8	7	6	8	6.6
介5	2	2	1	1	1	3	3	2	2	2	3	3	2.1
計	109	108	107	108	110	113	116	118	119	114	114	118	112.8

## (5) 地域包括支援事業

### 横浜市加賀原地域ケアプラザ

加賀原地域ケアプラザは、佐江戸・加賀原地区、川和地区、池辺地区を担当しています。

コロナ禍により、地域活動(老人会やサロン等)が休止や解散する団体が増加し、その弊害として高齢者の外出機会が著しく減少した。ケアプラザとして、コロナ禍でも安全に活動が再開できるように、まずは新型コロナウイルスについての正しい知識の周知活動や、感染対策方法を含む、安全に安心して活動できるように活動再開支援を行ってきました。その結果徐々に活動再開につながりましたが、制限された生活が長引いたため、特に高齢者世帯において、身体機能の低下や精神症状の悪化による相談が増加した。令和3年度と比較すると、認知症以外の精神疾患(統合失調症・うつ病など)のケースが、1.4倍に増加し、その他財産管理ができない方の権利を守るための成年後見制度や詐欺被害の相談については3倍に増加した。

地域支援の活動として、佐江戸・加賀原地区で活動するちよこっとボランティアの周知や、地域ボランティア活動の重要性の再確認、抱えている担い手不足の解決に向けて、全4回の連続開催で「地域づくりフォーラム」を開催。第1回では佐江戸・加賀原を知る(自分の住んでいる地域を知る)、第2回ではゴミ屋敷にならないための片づけ講座、第3回では家族・自分が認知症になった時に地域でどのように暮らすか、第4回としてちよこっとだけボランティア(ちよこっとボランティア)で地域が助かる事を開催し、地域を知り、ボランティア活動を知り、ちよこっとボランティアの重要性、必要性につなげるフォーラムとなった。このフォーラムを通じ、4名の新規ボランティアが登録していただきました。

主任ケアマネジャーの事業では、ケアマネジャー支援として、「民生委員とケアマネジャーの交流会」を開催。ケアマネジャーもご利用者が地域で孤立することなく、自分らしい生活が継続できるために、地域のインフォーマルサービスを活用したケアプランの作成が求められる中で、地域で活躍する民生委員との接点はとても重要な役割となります。民生委員とかケアマネジャーが顔の見える関係構築を目指し支援を行っています。今年度は交流会では、都筑消防署の協力により、救急時の情報提供「ACP」についての情報交換会を実施しました。その他、担当地区の事例検討会では、「在宅生活の限界をわかろうとしない家族支援」について検討を行いました。

保健師の取り組みとして、生活支援COと協力し、地域団体の活動再開支援のため、「老人会・サロン交流会」を開催、活動支援に加え、地域ボランティアの人材育成に取り組みました。その他、フレイル予防の口座として、「生活習慣病予防の食事について」「オーラルフレイルについて」の講座を開催しました。介護予防の体操講座として、「ポールウォーキング体験会&植物観察」「楽笑体操」を地域団体や地域の人材と連携し実施しました。そして令和4年度より、医師会(都筑区在宅医療相談室)との連携により、「人生会議の講話」をはじめ、地域情報の共有や医療が求められる相談に対し、医師会と連携して解決に向かうことができました。

社会福祉士の取り組みとして「権利擁護・エンディングノート講座」では、自分自身の振り返りを行い、これからの人生を「自分で決めることの重要性」に気付いていただける内容としました。「終活講座」としては全9回開催し、延べ173名に参加していただきました。その他加賀原地域ケアプラザは来所がしにくい立地の為、各地域への出前講座として全10回開催。「消費者被害について」「在宅以上について」「消費者被害について」「特殊詐欺防止について※都筑警察協力」「介護保険制度について」「認知症サポーター養成講座」「認知症について」を開催しました。

包括として、食支援への後方支援を実施。・池辺地区では高齢者・障害者向けに11月に実施・佐江戸・加賀原地区は子育て世帯向けに12月に実施しました。

包括支援センターという地域拠点として、地域活動交流COや生活支援COと連携し、地域情報の収集により地域ニーズの把握に日々努めています。各地区で開催される会議(民児協等)やイベントに積極的に参加し、地域の皆様と顔の見える関係作りを行い、様々な方面から地域と関わることで、表面上では把握できない地域の現状を早期に察知、把握することで、地域のニーズに合わせた事業を計画・実行しています。

長期間のコロナ禍で複雑な相談も増えましたが、相談者はじめ、地域住民の皆様が安心して、自分らしく、住み慣れた地域で生活が継続できるように、地域に寄り添った支援に心がけています。

## 【2022年度相談件数と利用者数推移】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
相談	245	251	275	240	187	177	189	202	160	161	176	168	202.6
利用	280	285	247	253	258	253	247	247	247	248	249	245	254.9

## ビオラ市ケ尾地域ケアプラザ

### 【特徴・取り組み】

ビオラ市ケ尾地域包括支援センターは、田園都市線市が尾駅から徒歩5～6分のケアプラザ内にあります。

同じ敷地には、特別養護老人ホーム、訪問看護、訪問介護等があり、高齢者が住み慣れた地域でいつまでも安心して生活できるように、医療と福祉サービスが一体的に提供できる環境です。また担当エリア内には、青葉区役所、青葉警察署、青葉消防署があり各行政機関と連携が取りやすい環境にあります。

取り組み：

地域包括支援センターには、保健師、社会福祉士、主任ケアマネジャーが配置されています。

①保健師が中心となり、介護予防講座で専門の講師を呼び介護予防に関する勉強会を進めています。

上市ケ尾、中市ケ尾、下市ケ尾、荏田西の各地区で元気づくりステーションが開催されていて、地域の方々が積極的に参加され身体を動かし、ご自身の健康管理をおこなっています。

②介護保険のほか、生活全般にわたって幅広く相談に応じれる地域の身近な相談窓口としての機能があります。

荏田西地区では、『荏田西ポジティブエイジングサロン』を開催、その中で出張相談会も行いました。

市ケ尾地区では、『市ケ尾カルチャーサロン』を隔月開催し、近隣住民の方々が気軽に集まり軽い運動や終活、情報収集ができる場を作りました。

③虐待の防止、悪質な訪問販売等による消費者被害防止など、青葉区役所高齢障害支援課と連携を取り、

高齢者の権利を守るように、引き続き各会合に出向き注意喚起をおこなっています。

④地域ボランティアや各自治会の支援を生活支援コーディネーターと連携を図り進めています。青葉区他の地域包括支援センターと協力してケアマネジャーのネットワークづくりや勉強会の開催支援。新任ケアマネジャーの育成を目的とした実習支援をしています。

認知症の方やその家族、地域の方の居場所づくりを目的に市ケ尾地区で認知症カフェを開催しています。

地域のクリニックと連携し、医療と介護保険が途切れることなく支援できるよう、医療機関との連携を進めます。

⑤介護者の心身負担を軽減するため、介護をしている方、介護の経験がある方、介護に関心がある方を対象に相談・情報交換の場として、介護者のつどいを開催しています。毎回講師の方をお呼びして、

ミニ講話をして頂いています。茶話会で介護者同士の悩みや疑問解決をすることができました。

⑥認知症サポーター養成講座

認知症について正しく理解し、認知症の方を温かく見守っていただける支援者を養成するために、令和4年度は、市ケ尾地区荏田西地区ともに一般向けの認知症サポーター養成講座を開催しています。



## 【2022年度相談件数と利用者数推移】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
相談	81	100	82	79	78	81	99	85	63	77	92	95	84.4
利用	214	219	213	219	216	220	221	219	221	217	213	214	217.2

# ビオラ川崎

## 【特徴・取り組み】

ビオラ川崎地域包括支援センターは、渡田1～4丁目、渡田向町、渡田東町、渡田新町1～3丁目、渡田山王町、小田栄1～2丁目、小田1丁目を担当しています。

南武支線：小田栄駅から徒歩5分に位置しており特別養護老人ホームビオラ川崎に併設されたセンターです。周辺には大型ホームセンターやスーパーがあり休日は買い物客で賑わっています。

当センターでは、相談に対する初動を大切にし、地域の声を真摯に受け止めることを心掛けています。総合相談では保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員、介護支援専門員が在籍しており、職能を活かした専門的な支援が提供できるよう、定期的に所内でミーティングを行い情報共有を図っています。また、他包括との共同で地域のケアマネジャー向け研修会を企画、普段から顔の見える関係性を大切にし、地域のケアマネジャーさんの資質向上、後方支援にも取り組んでいます。

地域活動においては、コロナ禍での閉じこもり・運動不足による身体機能低下の予防にむけ、感染症対策を行いながら、安心して運動できるよう、地域の公園をお借りしての公園体操、老若男女で楽しめるモルック、いこいの家をお借りし地域の訪問診療医の協力を得て認知症への理解を深める認知症カフェの開催など、多くの企画を開催いたしました。

## 【2022年度相談件数と利用者数推移】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
相談	95	73	93	73	72	126	119	89	85	138	135	142	103.3
利用	171	175	179	178	174	170	175	175	170	171	175	177	174.2

# ビオラ宮崎

## 【担当地区】

川崎市宮前区宮崎、宮崎1～5丁目、神木、けやき平、南平台

川崎市全体の高齢化率は20.4%、宮前区全体は21.4%です。ビオラ宮崎圏域の平均は22.1%ですが地域によっては12.3%～37.5%と開きがあります(全国平均は28.9%)。

## 【重点項目・取り組み】

令和2年から3年間、コロナ渦で外出を控えていた高齢者の方々の体力・筋力の低下、認知機能の低下が懸念され、ビオラ宮崎に寄せられた相談は年間2118件と昨年比1.6倍に増加しています。介護保険の申請相談はじめ、認知機能が低下した高齢者のご家族からの介護相談も増えました。相談件数が増えても迅速に対応するよう職員一同取り組みました。令和4年度は南平台地区に重点を置き誰もが住みやすい町を目指し自治会や民生委員児童委員さん方を交えて地域ケア会議を開催し連携を深めました。

ただ地域包括支援センターは地域の中で十分に周知されているとは言えないため、社会福祉協議会主催の一人暮らし会食会(お弁当持ち帰り)や民間の地域活動のカフェなどに参加し地域包括支援センターの広報活動も積極的に行いました。宮前区老人福祉センターで2ヶ月に1度、出張相談のブースも開設しています。

必要に応じて区役所の高齢者支援係や成年後見支援センターと連携し高齢者の権利が守られるよう成年後見制度につなげる支援も行ないました。また、地域の方向けに「知っておきたいお金の話」として、家族が認知症になった時、死亡した時などの金融機関の手続きについての講座を開きました。

宮崎第一公園体操、令和3年から立ち上げたこうしん坂公園体操も継続し毎回楽しんで体操を行っています。

## 【2022年度相談件数と利用者数推移】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
相談	152	186	158	172	167	212	194	200	176	187	164	154	176.8
利用	196	197	193	203	196	208	211	210	214	213	217	220	206.5



# こだなか

## 【担当地区】

川崎市中原区上小田中・上新城・新城・新城中町・下新城

## 【重点項目・取り組み】

高齢者の通いの場として8月を除き毎月1回しんじょうサロン、ごうじサロンを開催しました。サロンでは毎回思考を凝らし腹話術とマジック、リズムで脳トレ、ポッチャの体験、盆踊りコグニサイズ、クリスマスコンサート等講師をお招きしたり毎月違うプログラムで開催しています。 ・各老人いこいの家で健康チェックを年2回開催しました。また感染予防で参加人数制限をしているので感染予防の観点から予約制とし事前申し込みで人数調整を行いました。

- ・介護家族のつどいを2回開催し介護の悩み相談やおむつの当て方、介護ベットの紹介等を行った。
  - ・広報活動としてこだなかだよりを5月、9月、11月、3月に発行し町内会回覧板、掲示板に掲示して頂き近隣のご協力頂ける区役所、老人いこいの家、薬局、銀行、郵便局に置かせて頂きました。
  - ・今年度は社協の一人暮らしお食事会にて歯科衛生士を紹介したり、包括の職員参加をさせて頂いた。
  - ・地域包括支援センターの役割は幅広く有りますが、地域の高齢者の方々が気軽に立ち寄れる相談窓口として役割を果たしていきたいと思えます。
- 健康問題、介護について、金銭管理について等色々な相談に対して、保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員の三職種で話し合いながら対応をしています。地域住民にとって住み慣れた地域で長く生活を送れるように、また地域の介護支援専門員の方々とも協力をして利用者にとってより良い生活が送れるようにお手伝いをしたいと思います。

## 【2022年度相談件数と利用者数推移】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
相談	170	161	226	218	151	157	169	91	110	161	170	153	161.4
利用	199	204	205	204	204	201	197	194	190	188	188	188	196.8



## (6) 在宅サービス事業

### 定期巡回随時対応型訪問介護看護・訪問介護・夜間対応 (エヌアイ在宅サービスステーション)

#### 【特徴・取り組み】

##### 定期巡回:

1回20分程度のサービスを中心にご利用者様の状況に応じて、サービスを展開する事業です。24時間の対応になっています。

##### 訪問介護:

ご自宅で少しでも長く生活できるように、ご自身でできないところをサポートするサービスとして、家事援助から身体介護まで対応しております。その人らしく生活できるように自立支援を目指し、サポートさせていただきます。

##### 夜間対応:

夜間にサポートが必要な方に対応するサービスです。ナイトケアや夜間に不安になりがちな方など、緊急端末機を設置して、対応させていただいております。

#### 【2022年度実利用者数推移】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
定巡	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
訪問	33	35	34	34	33	32	27	27	30	31	28	28
夜間	4	4	4	4	3	2	0	0	0	0	0	0

## 訪問看護（エヌアイ在宅サービスステーション）

### 【特徴・取り組み】

#### 訪問看護：

自宅で生活していく中で、医療面のサポートを24時間体制で行っています。安心・安全な生活を担保し丁寧な看護をモットーとしている。平均的に売上げを維持し、一日4件程度の訪問を継続。近隣のご利用者様事業所から一定の評価をいただいている。

#### 訪問リハビリ：

自立支援を目指し、ニーズに沿ったリハビリを提供している。ご利用者様が、残存機能を維持し日常生活の中で不自由を少しでも改善して、生活できるとようにすることを目的として、日々取り組んでいる。利用者の定着率は高く訪問件数も安定している。職員の経験年数とともに充実した施術を行えている。

### 【2022年度のべ利用者数推移】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
看護	118	116	119	115	116	114	110	109	108	111	108	107
リハ	83	79	79	78	77	77	77	77	76	76	73	72

## 生活支援員派遣

### 【特徴・取り組み】

シルバーハウジング南平住宅に生活支援員を派遣しています。入居者の安否確認のほか、生活相談などにも対応しています。

### 【2022年度のべ利用者数推移】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入居	32	33	32	32	32	32	32	33	33	33	32	31
相談	0	0	2	1	5	3	3	1	5	8	13	4



中川徳生会